

特54  
951

特54  
939

通學表解叢書

後藤 嘉之  
美島 近一郎  
增訂  
東京

會合  
社資  
六  
盟  
館

日  
本  
史

明治  
39 8 9  
丙寅

202265-000-2

特54-951

增訂日本史

後藤 嘉之

美島 近一郎 / 著

M39.8

EDC-0133



## 序言

一表解叢書の目的は中學校、師範學校、高等女學校等の生徒諸氏及學力檢定受験者諸氏のため、普通學の全般に涉り表式的に簡明正確に解釋を加へ説明を試み理解を易くし記憶に便ならしめ學習上少しの時間と勞力とを以て多くの緊要なる事實や道理を會得せしめんがためである

一特に歴史と言ふ學問は事實複雑を極め頗る學習に困難なるものと信ずる著者等は此點に最も工夫を費やし原因結果の關係を所謂繫說體によりて明かに組立てたのである

一諸氏は教室の講義や復習や研究等の場合に常に之を携帶して卷末の白頁を利用し以て著者等用意のある所を充分玩味せられんことを望む

明治三十八年一月

著者識るす

改版につきて。

好評噴々出版界を驚動せしめたる表解叢書は今や修正改版の時機に達した著者等は本書の信用の非常に増進したると全時に益本書の責任の重大となりたるを感じ改版につきて層一層の奮勵を以て讀者が與へられたる好意に報いんとするものである。

明治三十九年七月

### 増訂日本史

目次

#### 太古(神代)

一	我國體の尊嚴……………
二	伊弉諾伊弉冉二神の神功……………
三	天照大神靈徳……………
四	出雲皇族の祖……………
五	天孫降臨……………
六	神代の風俗……………
上古	

太古—上古

一	神武天皇御東征と御即位……………
二	神武天皇の御治績……………
三	崇神天皇の御治績……………
四	垂仁天皇の御治績……………
五	垂仁天皇時代の風俗……………
六	景行天皇熊襲及び蝦○の御親征……………
七	日本武尊の西征東伐……………
八	都督及び地方政治……………
九	成務天皇地方制度整理と やまと朝廷……………

(神武天皇—蘇我氏滅亡)

目次

- 一〇 韓土内附と國威發揚……………七
- 一一 仁德天皇と御治績……………八
- 一二 氏及び姓の制定……………九
- 一三 歸化人の往來……………一〇
- 一四 雄略天皇時代の政治風俗等……………一〇
- 一五 大臣大連家の盛衰……………一一
- 一六 韓土の變遷……………一二
- 一七 佛教の傳來……………一三
- 一八 物部蘇我二氏の爭亂……………一三
- 一九 蘇我馬子の大逆無道……………一三
- 二〇 聖德太子の御治績……………一四
- 二一 支那との國交……………一四

- 二三 蘇我氏の專横と滅亡……………一五

中古(上)

(大化新政—奈良朝の終まで)

- 一 大化の新政……………一六
- 二 越蝦夷征伐……………一七
- 三 韓土の形勢……………一七
- 四 天智天皇の御治績……………一八
- 五 藤原鎌足の事蹟……………一八
- 六 壬申の亂……………一八
- 七 天武天皇の御治績……………一九
- 八 持統天皇の御治績……………一九
- 九 漢文學の進歩……………一九

中古(中)

(平安奠都—平安朝の終まで)

- 一 平安奠都……………二七
- 二 蝦夷征伐……………二七
- 三 勃海入貢と其滅亡……………二八
- 四 藥子の亂と政變……………二八
- 五 弘仁時代の漢文學……………二九
- 六 弘仁時代の佛教……………二九
- 七 藤原氏及他氏の盛衰……………三〇
- 八 清和天皇の御事績……………三〇
- 九 菅原道眞の登用及び貶竄……………三一
- 一〇 延喜の聖世……………三一

- 一〇 大寶律令……………三〇
- 一一 藤原不比等の事蹟……………三二
- 一二 四南諸島の歸服……………三二
- 一三 奈良の奠都……………三三
- 一四 和銅開闢の鑄造……………三三
- 一五 古事記及び風土紀……………三三
- 一六 元正天皇の御治績……………三三
- 一七 佛教の大興隆……………三四
- 一八 美術工藝の進歩……………三四
- 一九 天平時代の風俗……………三五
- 二〇 皇位繼承事變……………三五
- 二一 光仁天皇御治績……………三六

次 目

- 一一 延喜の文學……………三四
- 一二 地方制度の紊亂……………三四
- 一三 承平天慶の亂……………三五
- 一四 天曆の世……………三五
- 一五 藤原氏の專權……………三五
- 一六 藤原氏家門の争……………三五
- 一七 藤原道長の盛運……………三七
- 一八 藤原時代和歌和文の發達……………三七
- 一九 四納言と三續……………三七
- 二〇 藤原時代の才媛……………三六
- 二一 藤原時代の風俗建築美術工藝……………三六
- 二二 刀伊の亂平忠常の叛逆……………三六

- 及び地方の紊亂……………三六
- 二三 前九年の役……………三六

中古—下…後三條天皇の御親政より平氏の滅亡まで

- 一 後三條天皇御親政……………三六
- 二 白河上皇の院政……………三六
- 三 後三年の役……………三六
- 四 院政時代の風俗……………三六
- 五 保元の亂……………三六
- 六 平治の亂……………三六
- 七 平氏の繁榮……………三六
- 八 諸源の擧兵(平氏の滅亡)……………三六

近古(上)

(鎌倉幕府創立—北條氏滅亡迄)

次 目

- 一 源頼朝の霸業……………三六
- 二 源頼朝の治績……………三六
- 三 鎌倉三代……………三六
- 四 承久の亂……………三七
- 五 泰時の治績……………三七
- 六 時頼の治績……………三六
- 七 鎌倉武士京都公卿及び風俗……………三六
- 八 鎌倉時代の教育文學及び美術……………三六
- 九 鎌倉時代の宗教の新派……………三六
- 一〇 元寇……………三六

- 二 兩皇統の交立……………三六
- 三 五攝家……………三六
- 四 元弘の亂……………三六

近古(中)

(建武中興—南北朝合一まで)

- 一 建武中興……………三六
- 二 足利尊氏の叛逆……………三六
- 三 南北朝の分立及び合一……………三六

近古(下の一)

(南北朝合一—群雄割據まで)

- 一 足利幕府より室町幕府……………三六
- 二 室町幕府の組織……………三六

近古—近世

5

目

次

- 三 義満の驕奢……………三七
- 四 應永の亂……………三七
- 五 外交……………三六
- 六 永享の亂……………三六
- 七 嘉吉の亂……………三七
- 八 應仁の亂……………三七
- 九 關東分裂……………三七
- 一〇 東山時代の美術工藝文學……………三八
- 一一 足利氏の末世朝廷の衰微と京畿の亂……………三八
- 一二 群雄割據……………三九
- 一三 群雄割據時代の外交及び戰術……………三九

近古(下の二)

(織田信長の上洛—朝鮮征伐迄)

- 一 織田信長の事業……………三六
- 二 豊臣秀吉統一の順序……………三七
- 三 秀吉の建築と政治……………三八
- 四 朝鮮征伐……………三九

近世

(關ヶ原役—江戸幕府滅亡迄)

- 一 徳川家康……………三九
- 二 關ヶ原の戰……………三九
- 三 豊臣氏の滅亡……………四〇
- 四 徳川幕府の組織……………四〇

目

次

7

- 五 徳川幕府の組織……………三七
- 六 天主教の傳播……………三六
- 七 外交……………三六
- 八 島原の亂……………三六
- 九 由井正雪の變……………三七
- 一〇 文學の復興有名なる漢學者國學者……………三九
- 一一 元祿時代……………三九
- 一二 元祿時代の美術工藝風俗……………四〇
- 一三 新井君美の事蹟……………四〇
- 一四 將軍吉宗の治績……………四〇
- 一五 田沼意次の失政……………四一

- 一六 寛政の治……………四一
- 一七 尊王論……………四一
- 一八 海防策……………四一
- 一九 邊警の急……………四二
- 二〇 外船撃攘と内外の形勢……………四二
- 二一 國學者儒家蘭學及び教育……………四三
- 二二 文化文政の治……………四三
- 二三 大鹽の亂……………四三
- 二四 水野越前守の事蹟及び幕府の非運……………四四
- 二五 ベリー來朝……………四五
- 二六 ロシア來朝……………四五

近世

現世

二七 幕府威信の失墜……………二六  
 二八 安政大獄原因……………二七  
 二九 同上の事實……………二七  
 三〇 同上の結果……………二六  
 三一 幕府政權の移轉……………二六  
 三二 攘夷難下の關及び生麥事件……………三〇  
 三三 長州征伐……………三三  
 三四 大政奉還……………三三

現世

(王政維新より現時に至る)

一 王政維新の大業……………三三  
 二 伏見鳥羽の戰及び戊辰の役……………三四

三 五條御誓文……………三五  
 四 外交……………三五  
 五 一世一元、天長節及び東京奠都……………三六  
 六 廢藩置縣……………三六  
 七 征韓論……………三七  
 八 佐賀の亂……………三七  
 九 臺灣征伐……………三七  
 一〇 西郷隆盛の亂……………三八  
 一一 憲法發布……………三九  
 一二 皇太子册立……………三九  
 一三 日清戰爭……………三九

現世

一四 條約改正……………三三  
 一五 北清事件……………三三  
 一六 日英同盟……………三三  
 一七 日露戰爭……………三四  
 一八 我國の位置……………三五



增訂日本史

太古神代

一、我國體の尊嚴(事)  
(世界無比) 實

二、伊弉諾伊弉冉(事)  
神の神功 實

神代

後藤 嘉一 美島 近一 郎之 共編

- 一、萬世一系の皇統。
  - 二、天壤無窮の皇運。
  - 三、安遠雄大の皇基。
- 男女二柱の御神大八洲の國を經營したまふ(大八洲とは淡路、四國、隱岐、筑紫、壹岐、對馬、佐渡及び本土の八島) 天照大神素盞鳴尊を始め諸神を生みたまふ。



三、天照大神の靈事 (伊勢の内宮)

一、高天原を治めたまひ農業、養蠶、機織等を教へたまふ。  
二、三種の神器 (八咫鏡、叢雲劍、八咫瓊勾玉) を以て世々皇位の御璽としたまふ。

四、出雲の祖皇

- 1. 素盞鳴尊
- 2. 大國主命 (出雲大社)

大神の御弟なり出雲に降り韓地にも往來したまふ。  
尊の裔なり國土を開き、醫藥の法を教へ、出雲を中心とし威徳振へり大神の神勅を奉じ國土を奉還し自ら杵築宮に退く。

五、天孫降臨

- 1. 御歴代
- 2. 皇宮

一、天の忍穗耳尊(大神御孫日向高千穂峯に降り給ふ) 二、彦火瓊瓊杵尊(大神御孫日向高千穂峯に降り給ふ) 三、彦火火出見尊。四、鵜飼草葺不合尊(三代相次ぎて日向にあり)。  
日向高千穂國笠沙碕に都し三代にして神武天皇に至る。

六、神代の風俗

- 1. 良民
- 2. 蠻民

皇化に浴し家を造り田を耕やし衣を織り土器、鐵器の製造を知り風俗淳良敬神の念篤く上下君臣の分早く定まる。  
蠻民…皇化に浴せず穴居をなす土蜘蛛、蝦夷などの如し。

上

- 1. 海内一統の議 (諸皇族と議を決したまふ)
- 2. 古 (神武天皇より蘇我氏滅亡まで)

一、神武天皇御即位

- 2. 順路
  - 3. 御即位 (紀元節)
- 日向高千穂宮豊の國(菟狹) → 筑紫 → 安藝 → 吉備(留まること三年舟師を整ふ) → 浪速 → 河内 → 大和 (長髓彦天孫饒速日命を奉じ孔舎衛坂に防ぐ皇兄五瀬命戦死) → 紀伊 → 熊野 → 吉野 → 大和 (大久米命・道臣命先鋒となり、八十梟帥を誅し饒速日命は長髓彦を殺して降る)。  
大和平ぐるの日畝傍山の東南樞原の宮に即位したまひ紀元元年と定めたまふ此日を紀元節とす。

神武天皇一蘇我氏滅亡

神武天皇—蘇我氏滅亡

二、神武天皇御政

7.5.3.1.

(附 説)：金鷄勳章の由來：長髓彦征討の時金鷄の靈ありしに由る。  
靈時を鳥見山に祀り皇祖天神を祀り、2.三種の神器を正殿に安んじ奉り  
天種子、命天孫、命に祭祀の事を主どらしめ、4.道臣、命大久米、命は武備す  
可美真手命に宮中を衛らしめたまひ、6.功臣を國造縣主となし、  
諸官職を世襲とす。

1. 鏡劍模造の理由

神器を宮中に奉安するは神威を潰がすの恐ありとて鏡劍は  
大和笠縫邑に奉遷し更に之れを模造せしめて勾玉と共に宮  
中に安んず。

三、崇神天皇御治

2. 四道將軍の派遣

一、理由：土民をして皇化に霑はしめ給はんが爲め。  
イ、北陸：大彦命。ロ、東海：武渟川別命。ハ、  
西海：吉備津彦命、丹波：丹波道主命、東國：  
特に皇子豐城入彦命。

3. 民業

一、調の初め：人口増殖、國費増加の爲め男は弓、女は手末  
の調を課す。二、造船：交通に便す。三、池溝：水利灌漑  
に便す。四、農業：大に奨勵せらる。

四、垂仁天皇御治

1. 政治

治：一、敬神。二、勸農。三、池溝開通等のことあり。  
宮：鏡劍を笠縫邑より伊勢五十鈴の川上に奉遷す。

五、垂仁天皇時代の風俗

1. 衣服 2. 家飾 3. 食器 4. 武器

服：男女共に筒袖にして上下に分れ上衣の下に袴あり材料は麻  
布楮布なり。  
髪：男はミヅラに結び女は後に垂れ又はマゲに結ぶ。  
屋：木造茅屋なり。  
器：素焼の土器種々あり。  
器：勾玉、管玉。  
器：刀、劍、冑、鏡。

神武天皇—蘇我氏滅亡

六、景行天皇及熊襲親征

- 1. 熊襲と
- 2. 蝦夷

熊襲は九州に住し蝦夷は東北に住める蠻民なり（蝦夷はあいのの祖先）。

征…天皇熊襲を親征し之を平け留る事六年にして歸京したまふ。

- 1. 西征

熊襲反覆常なし尊、年僅かに十六奇計を以て賊魁川上梟帥を殺す、賊魁草薙を日本武と上る、九州盡く平定す、尊御名は小碓と申し奉る。

七、日本武尊の西征東伐

- 1. 西征
- 2. 東伐
- 3. 熱田神宮

蝦夷反す叢雲劍を賜はり駿河に至り賊の野火を以て攻めんとするを破りたまふ相模、上總、奥州に至り全く鎮定す、信濃より近江に歸り伊勢能登野に薨じたまふ。

御劍を草薙劍と改めて奉祀せり。

八、都督及地方政治

- 1. 東山道都督…景行天皇皇孫御諸別王を以て東方十五ヶ國を治めしめ給ふ
- 2. 地方の政治…又諸皇子を君、別、國造、縣主に任じ地方を治めしめ給ふ。

九、成務天皇地方制度の整理とやまと朝廷

山河の形勢により國縣を分ち國造、縣主、稻置を國郡に置き地方制度を整理しやまとは事實上日本全國となる。

一〇、韓土國內附

- 1. 關係
- 2. 原因
- 3. 結果

神代より交通す崇神天皇の御代大加羅國より朝貢す、次て鹽乘津彦を遣して治めしむ。

仲哀天皇神功皇后と共に征す天皇軍中に崩御あり。

皇后武內宿禰（大臣）と計り新羅を征したまふ新羅王降り殿に誓を立つ熊襲従つて服す百濟、高麗次ぎて降る。

（日本府）任那に日本府を立つ韓土全く内附す國威大に振ふ

### 二、仁徳天皇即位と御績

- (附説)
  - 一、武内宿禰…景行、成務、仲哀、應神、仁徳五朝に歷仕し忠誠を盡す大臣の初めなり。
  - 二、皇后政を攝したまふこと六十九年に及ぶ。
  - 三、胎中天皇…應神天皇の御事なり。
- 1. 即位の由…
  - 應神天皇崩じ皇子大鷦鷯尊(兄)菟道稚郎子(弟)位を譲り合ひたまふこと三年、稚郎子長幼の序を重んじたまひ自終をられ天皇御即位あり。
- 2. 遷仁政と都…
  - 一、仁政…開墾、民事、漚漚等に意を用ひたまふ炊煙の稀なるを見て三年調役を免じ宮殿の修造には庶民子來す。
  - 二、遷都…韓國との交通頻繁なるを以て難波(播磨)に遷都したまふ。

### 三、氏及び姓の制定

- 1. 目的…九代天皇氏姓の混乱を正したまふ。
- 2. 種別…
  - 氏…系統、家業等をあらはす。
  - 姓…家格の尊卑をあらはす、種々ありて臣、連の二を最も貴しとす大臣には平群、蘇我、葛城(武内宿禰の子孫)家あり大連には大伴(道臣命の裔)物部(可美良手命の裔)二家任ぜらる。
- 1. 概括…
  - 神功皇后韓土征服後工藝、文物の傳來、交通の頻繁なるは一は應神天皇の時代、二は雄略天皇の時代とす、歸化人の多くは秦、漢人及び朝鮮人なり。
- 一、文物…
  - 1. 阿直岐…文學に通じ應神天皇に良馬を獻じ皇子稚郎子に文學を教ふ。
  - 博士王仁…論語千字文を獻す。

神武天皇—蘇我氏滅亡

三、の歸往來人

2. 應神天皇時  
代文物工藝  
と有名なる  
歸化人

ハ、阿知の使主韓土より來朝す。

ニ、五經博士：百濟より來朝す。

(註)：漢學は大に盛となり子孫東史部、西史部となる

三、工 藝：弓月王：養蠶機織に巧なり後蘇氏を稱す。

一、文 物：音樂師、醫術者、曆術者、多く來る。

イ、酒の君、弓月王の孫相織に巧なり。

ハ、陶部、鞍部、毬部、百濟より來る。

3. 雄略天皇時  
代文物工藝  
と有名なる  
歸化人

四、雄略天皇  
時代の政  
治風俗等

1. 政 治

2. 外 宮

一、韓國の經營、武事、遊獵、殖産、興業に力を用ふ。  
二、皇后幡椽姫又養蠶を力め財政裕かに社會大に進歩す。  
宮：豐受大神を丹波より伊勢に祀る。

3. 風 俗

支那、朝鮮等の交通により上古の風一變し絹衣、製陶術、機  
關等行はる。

五、大臣大連  
家の盛衰

1. 平群氏の謀叛

大臣平群眞鳥反を謀る。大伴金村之れを誅し大連とな  
る。

2. 大伴氏の盛衰：金村繼體天皇を迎へ立て威勢大に振ひしも後衰ふ。

韓土内附後百濟・任那は我によく仕へ新羅・高麗は往々命を  
奉ぜず。一、仁徳天皇の時新羅朝貢を缺く將軍田道之れを討  
つ。二、雄略天皇の時吉備田狹任那によりて反す。三、顯宗

六、韓土  
變遷の

1. 我 勢 力

天皇の時紀大磐任那によりて反す。四、繼體天皇の時大伴金  
村任那の地を割きて百濟に與ふ、任那之れより怨む、次で新  
羅任那を侵す近江毛野之れを復す。五、欽明天皇の時新羅任  
那を滅ぼし、日本府を毀つ。

神武天皇—蘇我氏滅亡

神武天皇—蘇我氏滅亡

2. 沿韓土の革

古は北に古朝鮮あり南に三韓(馬韓・辨韓・辰韓)あり後北に高麗起り、三韓の地又東に新羅西に百濟中に任那あり、我の勢力南韓に振ひ百濟、任那我に朝貢を絶たざりしも、此時新羅のため百濟王は殺され任那も滅さる。

1. 原因

欽明天皇十三年百濟の聖明王佛像經文を獻じ佛教の功徳を説く。

一七、佛敎の來

2. 結果

天皇群臣に議せしむ大臣蘇我稻目は之れを可とし大連物部尾輿、中臣鎌子は否とす天皇佛像を稻目に賜ふ。

1. 發端

當時疫病大に流行す、之れ佛を信するに由るとなし、勅許を得佛像を難波の堀江に投じ寺院を營く。

一八、物部の蘇我氏亂

2. 經過

敏達天皇の御時百濟より經論僧尼、新羅より佛像を奉る蘇我馬子(稻目の子)之れを信じ物部守屋(尾輿の子)中臣勝海(鎌

子の子)之れを否とす時に又疫病あり、其原因を佛教に歸して相争ふ。

3. 結果

川明天皇の御代に至り争は益々烈しくふり、馬子は勝海を殺し次ぎて守屋をも殺す。

一、川明天皇崩後穴穗部皇子を害す。

二、崇峻天皇を弑し奉る、天皇は馬子が横暴を極むるに由り之を制し給ふ馬子之れを知りたるに由る。

太子は厩戸皇子にして用明天皇の御子なり、皇太子となり推古天皇(女帝の始め)の時、政を攝す。

博學多識徳高く且篤く佛法を信じ、佛經を註し四天王寺(攝津)法隆寺(大和)廣隆寺(山城)等を建て、佛像を造りたまふ。

2. 事業

業

1. 攝政

政

一九、蘇我馬子の逆無道事

實

神武天皇—蘇我氏滅亡

神武天皇—蘇我氏滅亡

二〇、聖德太子の御治績

3. 推古時代の美術・工・藝・學問の進歩

4. 冠位及び憲法

僧侶・寺工・佛工・瓦工・畜工等韓土より來り、建築・彫刻・繪畫等美術・工・藝 大に進歩す、學問も曆・天文・地理等百濟より來り、又太子は馬子と共に國史を撰したりしが蘇我氏の滅亡と共に亡びて傳はらず。

二三、支那との國交

推古天皇小野妹子を隋に遣はし、又留學生をも遣はし隋又我に報聘す以後唐の代となり益々交通盛んとなり、文物制度次第に面目を改め遂に大化の改新の原因をなす。

一、蘇我蝦夷 (馬子の子) 大に威權を振ひ推古天皇崩御に際し蝦夷遺詔と稱して欽明天皇を擁立し牽り益々大臣の威權を弄せり。

三三、蘇我氏の専横と滅亡

實

二、蘇我入鹿

(蝦夷の子) 横暴父にも優り山背大兄王 (聖德太子の御子) を忌みて之れを弑し且祖廟を神宮に邸宅を宮殿に擬し子を王子と呼びて憚らず。

三、中大兄皇子と中臣鎌足

皇子英明、鎌足忠節法興寺の蘇我の遊の時交を結び蘇我石川麻呂等と圖り韓人入朝の時入鹿を大極殿に斬り兵を遣はし其の第宅を襲ふ、蝦夷火を放ちて自殺す。

神武天皇—蘇我氏滅亡

中古 (上) ……大化の新政より奈良朝の終り迄

1. 年號の初…孝德天皇即位の年(二三〇五年)大化と號す。

2. 由來…  
(官職世襲の弊)  
勢力を専らにし人民を壓制す。

3. 發端…  
一、中臣鎌足大臣に任ぜられ。二、左右大臣又初めて置かれ。三、大臣大連の官を廢し給ひ。四、皇太子中大兄皇子は鎌足と共に天皇を助く。

一、大化二年改新の大詔を發し給ひ。二、臣・連・國造等の私有せる土地、人民を總て公地公民となし、臣民は食封、布帛を賜ふ。三、戶籍を造り班田收授の法を設け口分田を給し六

一、大化の新政

3. 發端

四、の大事業

年毎に收授す。四、税法を租庸調の三種とす。五、地方官には國司、郡司を置き國司は交代郡司は世襲とし從來の國造縣主を廢せり。六、中央政府は八省百官を置き太政官萬機を統へ世襲の制を廢し人の才學により官位を授く。

1. 發端…齊明天皇始めて淳足、磐船の二柵を設く。

2. 征伐…越の國守阿部比羅夫舟師を率ゐて越、蝦夷を征服し淳代、津輕二郡を置き渡島の蝦夷をも招撫し更に二度肅慎を討つ(肅慎は柯太の西大陸の東端にあり)

1. 任那の衰勢…我歷朝興復せしめんとせしも果さず。

2. 百濟の滅亡…新羅は唐の援を得百濟を侵す、齊明天皇太子と親ら兵を率ゐる百濟を援ふ利あらず、遂に亡びたり。

3. 高麗の滅亡…新羅又唐兵を借り高麗を亡ぼす。

4. 唐との關係…唐使來朝し、之と修好して彼の文物制度を採用せり。

二、越蝦夷征伐  
三、韓土の形勢  
(新羅獨立)



四、天智天皇の御治績

(中興の聖主)

五、藤原鎌足の事蹟

六、壬申の亂

- 1. 蘇我氏を滅し。2. 大化の改新を成し……………(以上即位前)
- 3. 學校を起し。4. 位階を改め。5. 戶籍を修正し、律令(近江朝廷令)を撰びたまふ……………(以上即位後)

始終天皇を輔佐し中興の功業をなし忠誠の名臣なり。

2. 薨去の前日天皇親臨し謂はんとする所を問ひ又藤原氏を賜ひ大職冠を授け内大臣に拜す。

3. 天兒屋命の裔勝海の孫なり興福寺、談山神社皆鎌足の爲めに祀る。

1. 原 因……………天智天皇太弟大海人に後事を託したまふも御兄弟御仲睦しからずして位を辭す天皇皇子大友の才學を愛し、太政大臣となす天皇崩じ大海人吉野に入りたまふ。

2. 結 果……………弘文天皇即位後大海人皇子兵を擧げ、伊賀伊勢より美濃に出て近江に向ふ滋賀の朝廷大に震駭し之を防ぎしも利あらず

(天皇長等の山前に崩じたまふ在位八ヶ月あり。)

賢 明……………天智天皇に譲らず。

1. 諸政の整理……………政治に勵みたまひ大化以後の新政を整理したまふ。

2. 姓氏の修正……………八姓を定めたまふ。

3. 位階……………を定め。

4. 法 令……………を修め。

5. 巡 察 使……………國司、郡司の治績を視察し人民の状態を問はしめ給ふ。

6. 武 事……………百官に用兵乘馬の技を習熟せしむ。

7. 仁慈にして能く國を治め給ふ。

8. 徵兵の始……………諸國の壯丁を徵兵とし武事に熟練せしむ。

9. 佛敎と共に漢文學進歩し、大化改新は更に其進歩を促がし、遣唐使等唐との交通頻繁なるに従ひ一種の文體をなすに至る、大津皇子は漢詩に巧なり。

大化の新政—奈良朝の終

七、天武天皇の御治績

八、持統天皇の御治績

九、漢文學の進歩

(天武天皇の皇后) 佛敎と共に漢文學進歩し、大化改新は更に其進歩を促がし、遣唐使等唐との交通頻繁なるに従ひ一種の文體をなすに至る、大津皇子は漢詩に巧なり。

1. 撰定

忍壁親王藤原不比等文武天皇の勅を奉じて、大寶元年に成る「律」(六卷)は罪を犯し法に違ひたる者の處分を定め「令」(十卷)は政務一切の定めなり即ち皇室・政府・軍事・教育等の法なり。

2. 官制令

一、「中央政府」には神祇官と太政官とあり、甲は神事を司どり、乙は政務を總理し太政大臣・左大臣・右大臣・大納言あり彈正タニシヨウは法に違へるを糺す所あり、更に中務・式部・治部・民部・兵部・刑部・大藏・宮内の八省あり。二、「地方官」は國司・郡司あり九州には特に太宰府あり國司の上に位す。全国各地には「兵備」として軍團兵士あり、軍團は全國の壯丁三分の一を募り兵士となし京都には衛府あり大小の「諸役所」皆長官、次官、判官、主典の四等の官員あり。三、「位階」は凡べて四

一〇、大寶律令

3. 刑法(律)

十八階あり。四、「學制」は京師に大學を諸國に國學を置きて經律音書算を授け試験によりて學者を官に登用す。刑名には笞、杖、徒、流、死、の五あり其他は虐、笞、絞等のことを規定す。

4. 令義解

大寶令の講義にして清原夏野編纂す。

二、藤原不比等の事蹟

鎌足の子にして持統、文武、元明、元正四朝に歴仕し大寶律令を定め其女は二皇后となり、二帝を生み奉る正一位大政大臣を贈らる。

三、西南諸島の歸服

推古天皇の御代に掖玖(今の屋久)多樹(種子)奄美(大島)歸服し現朝に至り度感(徳之島)元明天皇の御代には信覺(石垣)球美(久米)も歸服せり。

1. 時代

元明天皇和銅三年(一三七〇)。

2. 前例

神武天皇以後御代毎に都を遷すも宮を遷すほどにて容易に行はれしなり。

大化の新政—奈良朝の終

三、奈良の都

3. 奠都の要... 事御複雑となり政務繁多となり、二官八省とあり唐との交通類繁となり交際上、體面上、形式上の必要あり。

4. 偉觀... 唐の長安に則とり規模頗る偉大なりき。

5. 年代... 七代七十五年の帝都なり。

四、和銅開鑄

和銅開鑄... 太古は米穀布帛を以て物品買賣をふし、又外國の錢をも用ふ、天武天皇初めて鑄錢司を置き對馬の銀を用ふ、現朝の初武藏より和銅を奉る、銀及銅にて和銅開鑄を鑄造す、しかも舊習全く去らざりき。

五、古事紀及び風土紀

1. 元明天皇太安麻呂に勅し稗田阿禮が舊き事實を天武天皇の勅によりて譜記せしものを一々書記せしむ、古事記是れなり。  
2. 和銅六年諸國に詔し地理物産奇聞異事を記して上らしむ風土紀は是れなり。

1. 日本書紀... 舍人親王、太安麻呂勅を奉り養老四年に成る、六國史の第一なり。

一六、元正天皇

御治績 (文武天皇の御姉)

2. 吉備眞備阿倍仲麿

眞備二十四歳唐に往き在留二十年歸朝し、官右大臣となる、仲麿十六歳唐に往き玄宗に仕へ、名を朝衡と改め在留五十餘年唐に客死す二人は當時の秀才なり。

漢文の進歩... 律令・國史・地誌より凡べて公文は漢文を用ふ、漢文は當時の文學なり僧侶、遣唐使の往來は益々其進歩を促がす。

3. 奈良朝の文學

和歌及萬葉集... 和歌頗る盛なり、柿本人麻呂山部赤人山上憶良大伴旅人、大伴家持は古今の名手。

1. 聖武天皇奉佛

深く佛敎を信じたまひ、佛像を造り寺院を建て親ら經文を寫し諸國には國分寺を建て多くの僧尼を置き、敎旨を弘めたまひ奈良には國分寺として東大寺を建て、金銅盧舍那佛の大佛像を造りて安置せらる。

大化の新政—奈良朝の終

大化の新政—奈良朝の終

一七、佛敎の大興隆

2. 光明天皇  
后奉佛  
(事實二)

皇后また篤く佛法を信じ天皇と共に、其の興隆に力を盡したまふ。

3. 僧侶

(事實三)

僧行基は和泉の人天皇に敬信せられ、諸國を巡りて教を弘め傍ら道路架橋を便にし公益を興したり、天皇之れを大僧正としたまふ。  
天然の波羅門僧正、唐の鑑真は唐より來朝せしものなり。  
道慈玄昉は入唐の僧なり玄昉は不法の僧にして、藤原廣嗣の亂あり。

一八、美術工藝の進歩

(天平時代)

極盛時代とす奈良正倉院の御物佛像は精巧美麗靈妙を極む・蒔繪・織物・硝子彫壘等は精緻驚くべし、此時代を美術史中の天平時代と言ふ。

一九、天平時代の天平時代之風俗

唐との交通・佛敎・美術・工藝等の興隆・進歩に伴ひ服飾・器具は華美となり、和は長く廣きものとなり、右衽とかり、家屋は瓦葺となり、火葬も行はるゝに至る。

1. (事實一)

孝謙天皇佛敎を信じたまひ、又藤原仲麻呂を寵したまふ。

2. (事實二)

仲麻呂の勧めにより天皇讓位したまふ、上皇仲麻呂に惠美押勝の名をたまひ寵幸日にあつし。

3. (事實三)

僧道鏡又上皇の寵を得、押勝之れを怨み叛を圖りて、誅せられ淳仁天皇は淡路に遷されたまひ上皇重祚したまふ。

二〇、皇位承事變繼

4. 道鏡の專横  
(事實四)

道鏡寵により太政大臣禪師となり次に法王となり政事を一任さる、時に習宜阿曾麻呂(太宰主神)道鏡に諛び道鏡天位に即かば天下泰平ふらんとの神託を奏す。

5. 和氣清麿の忠烈  
(事實五)

天皇清麻呂を宇佐に遣はし神敎を請はしむ、清麻呂復奏して天日嗣は必ず皇胤たるべし、無道のものに速に誅せよと、道鏡大に怒り清麻呂を大隅に流す。

大化の新政—奈良朝の終

三、光仁天皇御治績

- 1. 藤原百川(モチカハ)…衆議を排して天皇を擁立し奉る。
- 2. 弊政改革…道鏡を下野薬師寺別當に貶し、清麿を召還し、後正一位を贈り護王明神として奉祀せらる。
- 3. 天長節の始…天長節を定め給ふ。

(附説)…法均尼…清麻呂の姉廣嶺出家して尼となる忠義慈愛の心篤し

中 古

(中)…平安奠都より平安朝の終りに至る

- 1. 理由…國運進歩政事多端規模擴張の必要あるに由る。
  - 2. 年代…桓武天皇延暦十三年(一四五四)より明治初年まで七十二代一千七十五年間の帝京なり。
  - 3. 位置…和氣清麿の奏請により山背國葛野郡に遷都したまふ、奈良の地は不便なるによる。
  - 4. 規模…頗る宏大ふり山河襟帯自然の城なりとて山城と改め平安城と稱す、左右二京を分ち皇居(大内裏)正北に位し朱雀大路南北に貫通し東西に九條の道路を設け市街の區劃井然たり。
- 奈良朝以來騒亂やます元明天皇出羽の國を置き、聖武天皇藤原宇合をして討たしむ、鎮守府將軍大野東人多賀城を築き以て征討に力むるも功ふかりし。

一、平安奠都

二、蝦夷征伐  
(桓武天皇時代)

- 1. 蝦夷跋扈…

平安奠都—平安朝の終

2. 坂上村麻呂

征夷大將軍となす、智略比ふく其賊酋を捕へ其巢窟をくつぶへす後嵯峨天皇の時征夷將軍文室綿麻呂共遺類を討平し、田村麻呂の築きし勝澤城に鎮守府を置く。滿洲に起りし粟末靺鞨にして、唐に仕へて渤海郡王に封ぜらる。

1. 起因

三、渤海入貢と其滅亡

2. 入貢

聖武天皇以後渤海屢々來朝し、桓武天皇の御代に亦其使入貢す天皇厚く之れを遇したり。醍醐天皇の頃まで朝貢せり。契丹攻めて之を降し東丹と改名せしむ、東丹來朝せしも無禮なりしより之を卻け朝貢絶つ。

3. 滅亡

四、藥子の亂と政變

1. 尚侍藥子の亂

平城上皇の寵をたのみ兄藤原仲成と謀り、上皇をして重祚しまゐらせ已れ后位に上らんとす、事露はれて成らず。

2. 藏人所及び檢非違使の創設

甲は訴訟及び機密の文書を取扱ひ、乙は警察を主どる共に亂後の政變とす。

1. 弘仁時代

漢文學最も盛なりし故に此名あり。

2. 嵯峨天皇の御才學

天皇資性英明にましまし經史に通じ、詩文は小野篁等と才を競ひたまひ筆道は空海橘逸勢と共に三筆の稱あり。

3. 檀林皇后

皇后嘉智子學を好ませたまひ、學館院及び檀林寺を建てたまふ。

4. 學校

官立の大學の外に私立としては弘文院、勸學院、學館院、淳和院、獎學院等ありて教育盛なり。

五、弘仁時代の漢文學 (三筆)

六、弘仁時代  
の佛敎

1. 其隆盛…孝謙天皇後一頓挫せしも當時又隆盛なり名僧多し。

一、最澄 (傳敎大師) 近江の人、延暦寺(比叡山)を建て入唐(延暦二十三年)一年にして歸朝し天台宗を弘む。

二、空海 (弘法大師) 讃岐の人最澄と共に入唐し、三年にして歸朝し眞言宗を弘む朝廷東寺に居らしむ金剛峰寺(高野山)を建つ空海書を善くしいろは歌の作者と稱せらる。

3. 佛敎の宗…當初より三輪、法相、成實、俱舍、華嚴、律の六宗なりしが天台、眞言の二宗傳はり、八宗となる。

4. 本土地垂跡説…奈良朝の時僧行基神佛同體説を唱へ最澄、空海更に其説を一歩進めて上下敬神の心を移し佛に向はしめたり。

七、藤原氏及び  
他氏の盛衰

1. 藤原氏の盛衰

一、北家の繁榮 仁明天皇皇子恒貞親王は太子たりしも罪なくして廢せられ藤原冬嗣の女の出なる道康親王太子とならせたまふ。

二、四家の由來 藤原不比等男四人あり其子孫南家、北家、式家京家に分る北家に冬嗣出づ、其一家獨り榮ゆ。

三、藤原良房 冬嗣の子にして太政大臣となり文徳天皇の時其女入内して惟仁親王を生み奉り遂に太子とならせたまひ。良房始めて太政大臣攝政となる。

四、藤原経原 陽成天皇を廢し光孝天皇を立つ始めて閉白なる阿衡の争あり藤原氏漸く專横なり。

五、藤原惟喬親王は仁明天皇の長子に在し天皇之れを太子にと思召すも御母紀氏なりければ果したまはず。

2. 他氏の出

清和天皇御事蹟

- 1. 登極の大攝政
- 2. 桓武天皇の皇孫を臣下に列し才能に従ひ仕官せしめたまふ
- 3. 桓武天皇の皇孫高望王より出でたる桓武平氏と、清和天皇の皇子貞純親王より出でたる清和源氏とは何れも藤原氏に比肩すべき勢力ありて武家の棟梁なり、其他良岑、在原等あるも藤原氏の勢力に壓せらる。

- 1. 關白の始

宇多天皇基經を優遇すること甚だ厚し基經に勅して關白たらしむ爾後攝政を返上すれば關白となる。

菅原道眞の登用及び貶竄

- 1. 道眞の登用
- 2. 道眞の理由
- 3. 道眞の人物
- 4. 道眞の貶竄

天皇藤原氏の專横を憤りたまひ基經の死後は關白を置かず菅原道眞を登用し藤原氏を壓抑せんとし給ふ。  
醍醐天皇御年十三位に上り藤原時平(基經の子)を左大臣に道眞を右大臣として輔佐せしむ、道眞學徳共に秀で資性忠良政治に精通せり又詩文筆道に巧なり。

一、宇多法皇深く道眞を信じたまひ關白に擧げ一切の政務を任せんとしたまふ道眞固辭す。二、藤原時平道眞の徳望を嫉み源光、藤原菅根等と謀り道眞廢立の意ありと言ひて之れを讒す、道眞は直に太宰権帥に貶せらる。三、法皇篤き援はんとし給ひしも及ばず後道眞の官位を復したまひ村上天皇の御代に北野神社に奉祀せらる。



平安寛都—平安朝の終

一、延喜の聖世

醍醐天皇仁慈下情を察したまひ寒夜御衣を脱したまひし事あり。時平と圖り奢侈を禁じたまふ延喜の聖世の名あり。

3. 三善清行封事を奉り時弊救済の策を論ず。

2. 三善清行……法律經史に精通せり。和歌に巧み凡河内、躬恒等と勅を奉じ古今和歌集を撰したり、勅撰集の始とす(延喜五年)又假名文を以て土佐日記を書きたり書道にも頗る堪能なり。

二、延喜の文學

3. 小野道風……書道の名手として著し。

4. 巨勢金岡……菑家の大家なり紫宸殿の聖賢の障子有名なり。

三、地方制度の紊亂

延喜時代は京都は繁榮なりしも地方は甚く紊亂し、口分田の制も亂れ、豪族土地を兼併し暴力を振ひ租税を納めず朝臣又土地を私有し驕奢の資となし盜賊横行し窮民多し。

平安寛都—平安朝の終

三、承平天慶の亂

1. 平將門の叛

2. 藤原純友の叛

3. 將門の純誅

4. 源平の名

將門(桓武平氏)は檢非違使たらんことを攝政藤原忠平に乞ひしに許されざりしにより大に怒り下總に行き侵掠を事とし朱雀天皇承平五年(一五九五)伯父常陸大掾平國香を攻め殺し東國大に亂る天慶二年(一五九九)將門遂に叛し下總猿島に宮府を建て京師に擬し自ら新皇と稱す。

純友伊豫の掾たり、將門と同時に東西に兵を擧げ、京都大に騷擾す。

藤原忠文を征東大將軍となし之を伐たしむ、至らざる前平貞盛(國香の子)下野押領使藤原秀郷と共に將門を殺し翌年小野好古、源經基命を受けて純友を誅す。

貞盛、秀郷、經基相次ぎ鎮守府將軍となる權力次第に武將に重く藤原氏の實權は京師以内なり貞盛は清盛の祖經基は清和天皇の御子貞純親王の子源氏の祖となる。

一四、天曆の世

村上天皇賢明にして大亂の後位に上り時政の得失を言はしめ種々改革したもふことあり天曆の治として延喜と並び稱せらる。  
(附説)：菅原文時封事を上り時弊を論ず

一五、藤原氏の専權

天皇の後冷泉天皇より後冷泉天皇に至る八朝百餘年間藤原氏の勢愈々盛んに皇室の外戚を以て權力を恣にする。  
一門權貴を争ひ父子兄弟姪仇敵の如し。

一六、藤原氏家の門の争

- 1. 兄弟相争ふ……藤原兼通の弟兼家兄に先んじ大納言とある兼通これを惡み其重病にあたりて兼家喜び關白たらんことを乞ふ。
- 2. 父子相憎む……兼家其女の生める一條天皇を立てんとし次子道兼旨を受け花山天皇を欺き奉り讓位させまゐらせ已れ關白たらんとして得ず父の喪に遊宴に耽る。
- 3. 叔姪相争ふ……道兼關白となり伊周これを咒詛し道長職を繼ぐや伊周亦これと争ふ。

一七、藤原道長の盛運

一條、三條、後一條の三代に仕へて攝政となり又太政大臣となり天下の樞機を握ること三十年其女三人以上三代の后となり後一條、後朱雀、後冷泉の外祖父となり專横榮華を極む晚年法成寺を建てこゝに徙る御堂關白と稱す。

一八、藤原時代の和歌大發達

- 1. 漢文學の盛衰……平安遷都後百年間は漢文學隆盛なりしが菅原道真遣唐使を止めしより國文學進歩の徵あり。
- 2. 假名の發明……奈長朝の末に片假名の發明あり。
- 3. 明と國文の振興……平安朝の始に平假名の發明あり。

一九、四納言と三蹟

- 1. 四納言……藤原行成、藤原公任、藤原齊信、源俊賢は一條天皇の御代才學特に優れたる文學者なり。
- 2. 三蹟……藤原行成、小野道風、藤原佐理は書道の名手なり。

平安奠都—平安朝の終

平安寛都—平安朝の終

二〇、藤原時代の才媛

- 1. 紫式部……源氏物語を著はす和文の手本と稱せらる。
- 2. 清少納言……枕草紙を著はす文章奇抜なり。
- 3. 和泉式部
- 4. 赤染衛門
- 5. 伊勢大輔
- 6. 小式部内待 等皆歌

文に名あり。

二一、藤原時代の建築、美術、工藝

- 1. 華美柔弱にして殺伐を好まず武事を賤しみ奢侈風流を好み詩歌管弦に耽り月觀花觀の遊興あり歌合、給合、貝合、今様、朗詠、雙陸、圍碁、賭弓等あり佛教の流行と共に加持、祈禱、迷信、方違等盛んに行はれ好僧惡尼尊敬せらる。
- 2. 衣服は男子は東帶衣冠直衣に冠烏帽子を戴き、女子は十二單衣に垂髪にして顔に白粉臙脂を川ひ墨にて眉を畫き鐵髮にて齒を染む、後男子もこれを真似るに至れり。

平安寛都—平安朝の終

二二、刀伊の亂、平忠常の叛、地方の紊亂

- 1. 刀伊の亂……  
支那東北に住める慄悍なる一種族刀伊の賊突然二、事實 對馬に寇し壹岐を襲ひ遂に筑前を犯す藤原隆家之を撃退したり。
- 2. 忠常の叛……  
同時代に前上總介平忠常下總に據りて叛す源賴信(六孫王源經基の孫)命により直に之れを平ぐ。
- 3. 地方の紊亂……  
京師は太平を夢み居るも莊園(官吏社寺の私有)は年々増加し國司郡司は政務を顧みずして私利のみを圖り、豪族常に一族家人を養ひて兵馬を練り威を振ふ。
- 4. 建築は貴人の住家は築土にて四周をめぐらし中央に寢殿あり東西に對屋あり築山泉水中央にあり當時有名なる建築は關白頼通の建てたる宇治の鳳凰堂及び陸中平泉の光堂なり。
- 5. 繪畫は宅磨爲成、彫刻は佛師定朝あり共に優美なる和様を發起せり。

一、時代：御一條天皇の御時なり。

三、前九年役

- 1. 時 代
- 2. 原 因
- 3. 結 果

後冷泉天皇の時代。  
陸奥の豪族安部頼時其子貞任と共に、白河以北の地を横領し國司も制すること能はず。  
朝廷源頼義(頼信の子)を陸奥守兼鎮守府將軍とし之れを征せしむ頼義其子義家と共に征し頼時敗死す貞任善く戦ひ官軍屢々不利なり出羽の豪族清原武則を招き共に貞任を滅ぼせり。

中 古

(下……後三條天皇御親政より平氏滅亡まで)

一、後三條天皇の御親政

- 1. 原 因
- 2. 事 實

天皇は藤原氏の山にあらず、故に藤原氏累代の專横を憤り御親政を行ひたまふ。

一、朝綱大に張る

藤原頼通(道長の子)自ら關白を止めて宇治に退き、弟教通唯だ員に備はるのみ、大權悉く皇室に收めたまふ。

大化の新政は全國の土地を皆官有となせしが次第に權門勢家の私有となり國司の支配を受けず課税を收めず國務の妨害甚だし。  
延久元年記録所を置き諸家の莊園を檢し其券書の不明なるもの又は新に立ちたるものを廢したまふ。

二、莊園の弊と記録所

後三條天皇御親政—平氏滅亡

後三條天皇御親政—平氏滅亡

二、白河上皇の院政

1. 由來

白河天皇英明御父帝の風あり藤原氏は爲す所なし天皇早く位を堀河天皇に譲り政を院中に聽きたまふ。

2. 事實

白河上皇院宣を以て天下に號令し武士を登用して北面とせられ院宣は詔勅よりも重きをなし大臣、關白は唯だ員に備はり天皇は御位に在すのみ。

一、弊政

白河法皇厚く佛法を信じ、豪華遊幸を好み、堂塔を夥しく建立し法會の施行度々にして國用不足し國司の重任賢官の弊甚しく莊園を私有するもの多くなり國司の支配下にあるもの全國の百分

三、御英明

天皇殿正にましまし奢侈を禁じ勤儉を獎勵し宣旨柙を製したまひ國司の重任を禁じ賢官の弊を正したまふ。

後三條天皇御親政—平氏滅亡

3. 結果

二、僧兵の跋扈

一にも充たす藤原氏及び皇室は衰へ唯武人のみ勢力あらはるゝに至る。  
佛教盛んとなり僧侶寺門勢力を得強暴其極に達し延曆、園城、興福、東大の諸寺多くの領地と數千の僧兵とを有し相争ひて勅命をも牽ぜず不平を朝廷に強訴し延臣は柔弱にしてなす所なく武人の力により之を退け得るのみ。

(附説)

白河法皇の言：朕が意の如くならざるものは鴨河の水雙陸の采及び山法師と。

1. 原因

出羽の豪族清原武則九年役の功により鎮守府將軍に任ぜられ子孫安部氏の所領を有し勢甚だ強大となる武則の孫眞衡の時其家臣吉彦、秀武、眞衡の弟家衡及び藤原清衡を誘ひ、眞衡の叔父武衡亦秀武に與みし内訌盛んとなり奥羽大に亂る。

三、後三年の役

2. 結果

- 一、陸奥守兼鎮守府將軍源義家眞衡を助け家衡武衡を討つ。
- 二、清衡、義家に屬し義家の弟新羅三郎義光も京より來り兄を助け、遂に家衡、武衡を平ぐ。
- 三、清衡は藤原秀郷の裔なり此功により子孫平泉(附説)に住み清原氏の地を所領とす。
- 四、朝議此戦を私闘とし恩賞せず、義家私財を將士に分つ、これより東國の武士源氏に歸す。

白河法皇時代。

1.

- 一、邸宅衣服…上下奢侈に耽り美を盡し華を競ふ。
- 二、遊宴…雪見、花見、歌合など盛んに行はれ遊宴に耽る。
- 三、鳥羽法皇時代。奢侈の風益増長し浮華淫蕩なり。
- 四、風教の頹廢
  - イ、朝臣は眉を染み黛を施し白粉を施し、齒を染め婦人のさまをなす事始まる。

四、院政時代の事實

2.

- 一、強裝束コハシヨソク
  - ハ、田樂…上下の共に翫へるものなり。
  - イ、法皇華美を好みたまひ容儀を修飾せん爲め裝束を強裝束に變じ烏帽子を額につくると定め給ふ(此風繼川氏の末に至る)
- 二、服制の更ソクセいの
  - ロ、白柏子シラヒヨウシ
    - 女子が男装をなし太刀を佩き歌舞すること起る。
  - ハ、平服
    - 家居には直垂、水干、出遊には狩衣あり。
- 三、禮服
  - 東帯を通常禮服とし最も上に着るを袍と言ふ輕便なる朝服を直衣と言ふ。

後三條天皇御親政—平氏滅亡

五、保元の亂

1. 原因

一、遠因

一、皇室の御不和

二、重臣兄弟の不和

二、近因

保元元年鳥羽法皇崩す遺詔と稱し上皇を其喪に參せしめたまはざらしむ。

鳥羽法皇、崇徳天皇と御父子睦しからず法皇天皇に迫まりて位を近衛天皇(法皇の寵姫美福門院の御腹)に譲らしめらる天皇早世したまふ崇徳上皇は御子重仁親王大統を繼ぐべく思召され且重望ありしに美福門院は關白藤原忠通と謀り法皇に勸めて後白河天皇(法皇の同母弟)を立て奉る。

後三條天皇御親政—平氏滅亡

2. 結果

1. 原因

一、上皇怒り兵を擧げたまふ。

上皇方 一、藤原頼長

二、天皇之を攻めたまふ。

天皇方 一、藤原忠通

二、平清盛(忠正の甥)

三、勝敗

上皇方敗る。一、爲義、忠正：降りて斬らる。

口、爲朝：伊豆大島に流され後琉球に入る。

ハ、頼長：流矢に中り薨す。二、上皇：讃岐に遷されたまふ。

一、首謀者：二人：源義朝及び藤原信賴。

權勢の争奪なり時に後白河天皇位を二條天皇に譲り院中に政を聽きたまふ信西は博識多才上皇の信任を受け頗る權勢あり清盛之れと姻戚とな

口、源爲義(義家の孫)

二、平忠正(忠盛の弟)

口、源義朝(爲義の長子)

### 六、平治の亂

#### 2. 結果

#### 果

#### 三、事實

り人望義朝の上により、義朝は清盛及び事を以て信西を怨む信賴は上皇の寵臣にして近衛大將たらんことを望みしに信西の爲めに妨げられ二人相結ぶに至る。

#### 一、舉兵

清盛の熊野に詣てし不在に乗じ二人兵を擧げ(平治元年)大内に攻め入り上皇天皇を宮中に幽し奉り信西を殺す。

#### 二、勝敗

イ、清盛急に歸り陰かに天皇を己が第に迎へ奉る。ロ、重盛は信賴、義朝を大内に攻め之を破る。ハ、信賴は斬らる。ニ、義朝、尾張に遁れ遂に殺さる。ホ、其子弟多くは斬らる。ヘ、頼朝は伊豆に流さる。

#### 1. 清盛の勢力(事實一)

官位累進し六條天皇の御時は太政大臣となし實權其手中にあり。

#### 2. 外戚の關係(事實二)

高倉天皇御母は清盛の妻の妹なり清盛は其女を天皇の中宮となし奉り藤原氏の繁榮にも劣らず。

#### 3. 一門の繁榮(事實三)

重盛は内大臣、弟宗盛は近衛大將、一門高官に上ほれるもの六十餘人、領地全國の半を占め平氏にあらざるものは人にあらずとの勢なり。

#### 4. 清盛の專横(事實四)

剃髮して淨海と言ひ、洛東六波羅の邸にて政を執り、西八條(京)に別邸を造り、福原(攝津)に別莊を營み都をこゝに移す。重盛薨じて其專横を諫むるものなし、遂に法皇を幽し天皇に迫りて位を安徳天皇(御母は清盛の女)に譲らしめ奉り法皇の謀に與るもの數十人の官爵を削る。

### 七、平氏の繁榮

清盛の專横  
重盛の忠孝



後三條天皇御親政—平氏滅亡

5. 重盛の忠孝(事實五)

清盛後白河法皇を幽せんとす、重盛慟哭忠孝の道を説きて諫む。

1. 原因

平氏の勢盛んに清盛專横益々甚だしきに依り之を滅さんことを謀るもの續出す。

一、藤原成親等の陰謀

治承元年(一八三七)後白河法皇の寵臣成親及び其子成經、平康賴、僧俊寛等鹿谷の別荘に會し平氏を滅さんと謀り成らずして殺され或は流さる。

二、源賴政の舉兵

治承四年(一八四〇)四月以仁王(後白河法皇の皇子)を奉じ其令旨を諸源に傳ふ事あらはれ賴政は戦死し王は流矢に中り薨じたまふ。

後三條天皇御親政—平氏滅亡

八、諸源の舉兵(平氏の滅亡)

2. 經過

過

三、源賴朝の舉兵

治承四年八月以仁王の令旨を奉じて伊豆に起り鎌倉を根據として西上せんとす平維盛清盛の命により富士川に進み戦はずして敗走す。

四、源義仲の舉兵とその末

一、以仁王の令旨を奉じて信濃に起り北陸の平氏を破りて京に迫る清盛の子宗盛、義仲を恐れ天皇及び神器を奉じ西海に奔る、義仲法皇を守護し征夷大將軍に任ぜらる。  
二、此時後鳥羽天皇神器なくして踐祚したまふハ、義仲暴行をなし法皇を幽し奉る賴朝の弟範賴義經に攻められ宇治勢多に破れ粟津に死せり  
三、一の谷の戦：平氏は安徳天皇を奉じ福原にかへり一の谷に據る賴朝院宣を請ひ範賴、義經

3. 結果

- 一、一の谷の戦
  - 二、屋島の戦
  - 三、壇浦の戦
  - 四、全滅
- 一の谷を陥る。  
 屋島の戦…平氏は一の谷より遁れて屋島に退く、義経屋島を攻め之を破る。  
 義経は山陽道より九州に渡り、義経は平氏を壇浦に襲ひ安徳天皇も海に崩じたまひ神劍亦海に沈む、時に壽永四年（一八四五）なり。

近古 (上)…鎌倉幕府創立より北條氏滅亡に至る

1. 鎌倉幕府の組織 (中央政府)

- 一、参内者三人…イ、大江廣元。ロ、三善康信。ハ、中原親能
  - イ、位 置…治承四年鎌倉に府を開く。
  - ロ、侍 所…軍事警察を主とる、和田義盛別當たり。
  - ハ、公文所…庶政を主とる、後政所と改む、大江廣元別當たり。
  - 二、問注所…訴訟を主とる、三善康信執事たり。
- 平氏殘黨及び義経を捕へんが爲なり、頼朝は義経の功を忌み又平氏追討の際専恣なりとし之を殺さんとす、義経遁る大江廣元の議を用ひ勞せずし

二、目的

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

### 一、源頼朝の業

#### 2. 地頭護

(地方政治)

(て捕へんとす。

イ、守護：諸國に置き家人を之れに補し兇徒を捕へしむ。ロ、地頭：莊園に置く兵糧米を徴收せしむ。

#### 三、結果

イ、頼朝伯父行家を殺す。義経に與みし已を討たんとせしによる。ロ、頼朝弟義経を殺す。義経陸奥に逃れ藤原泰衡に依り遂に殺さる。

#### 一、原因

頼朝泰衡の勢力大なるを恐れ義経を滅ぼすの晩きを口實として大軍を以て泰衡を滅ぼし奥羽平定す。

#### 二、結果

奥州總奉行を置きて之れを治む。  
イ(京都守護を京に置き鎮西奉行を九州に置き攝家

(附説)  
奥州征伐

武門政

### 3. 治の基礎

事實

〔を近衛九條の二家に分ち公卿十人を議奏となす建久三年(一一八五二)征夷大將軍に拜せらる依て實權全く武門に歸し六百七十餘年の武門政治の基礎をなす。〕

### 二、源頼朝の績

#### 1. 政治

政略に富み質素儉約自ら率ゐ、信義を重んじ、武事を尚び、卑怯を耻づるの風を養ひ、刑罰を省き、租税を減じ、窮民を憐れみ從來の弊を一洗す。

#### 2. 將性

質軍：第一代頼朝、第二代頼家、第三代實朝三代卅五年にして滅ぶ

#### 2. 執權

頼家の母政子藤中政を聽き北條時政外戚を以て權を專にす、比企能員北條氏を除かんとし事露はれて殺され頼家は事に與かりしを以て其子一幡と共に害せらる。

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

### 一、源頼朝の業

#### 2. 守地

(地方政治) 頭護

一、捕へんとす。

イ、守護：諸國に置き家人を之れに補し兇徒を捕へしむ。ロ、地頭：莊園に置く兵糧米を徴收せしむ。

#### 三、結果

イ、頼朝伯父行家を殺す。義経に與みし已を討經陸奥に逃れ藤原泰衡に依り遂に殺さる。

#### 一、原因

頼朝泰衡の勢力大なるを恐れ義経を滅ぼすの晩きを口實として大軍を以て泰衡を滅ぼし奥羽平定す。

#### 二、結果

奥州總奉行を置きて之れを治む。

#### 武門政

(附説) 奥州征伐

イ、京都守護を京に置き鎮西奉行を九州に置き攝家

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

### 二、源頼朝の績

#### 1. 政治

治

政略に富み質素儉約自ら率ゐ、信義を重んじ、武事を尙び、卑怯を耻づるの風を養ひ、刑罰を省き、租税を減じ、窮民を憐れみ從來の弊を一洗す。

#### 1.2. 性

質

猜疑心深きを缺點とす骨肉功臣多くは終りを全うせず。

#### 2. 執權

權

頼家の母政子藤中政を聽き北條時政外戚を以て權を專にす、比企能員北條氏を除かんとし事露はれて殺され頼家は事に與かりしを以て其子一幡と共に害せらる。

#### 3. 基礎

治の基：事實

一、を近衛九條の二家に分ち公卿十人を議奏となす建久三年(一一八五)征夷大將軍に拜せらる依て實權全く武門に歸し六百七十餘年の武門政治の基礎をなす。

三、鎌倉三代

3. 滅源

亡氏

一、實朝の才學……性温雅和歌を好む。  
頼家の弟千幡將軍となる實朝是なり、時政益重横、山重忠を滅し又將軍の廢立を謀り露はれて退けらる、子義時執權となり、奸惡父に過ぐ、和田義盛之を滅ぼさんとして却つて敗死す。

二、實朝の末路  
承久元年(一八七九)右大臣拜賀の禮を鶴が岡八幡宮に行ふ公曉(頼家の子僧となり其別當となる)父の仇なりとて實朝を社前に害し已れも義時に殺さる。

三、尼將軍  
政子は義時と共に藤原頼經を將軍となす、幼年なるにより政子簾中に政を聞く。

四、承久の亂 2. 經過

1. 原因

因

一、幕府の勢力  
仲恭天皇の時後鳥羽、土御門、順徳の三上皇在します後鳥羽上皇英武に在し幕府の勢力實朝没後益盛んに且義時屢々御旨に違ふにより承久三年義時追討の院宣を下したまふ。

二、征東の御企  
院中に北面の武士の外西面の武士を置き武事を練り刀劍を鍛ひたまふ。  
義時の弟時房、子泰時之れに將となり總數十九萬東海、東山、北陸三道並び進みて西上す。

一、東軍  
萬東海、東山、北陸三道並び進みて西上す。

二、官軍  
總勢僅かに五萬皆鳥合の衆のみ。

三、勝敗  
官軍敗れ泰時京に攻め入る。

一、皇室  
イ、天皇を廢して後堀河天皇を立つ。ロ、後鳥羽上皇讓岐に。ハ、順徳上皇佐渡に。ニ、土御

3. 結果

の災

門上皇土佐(後に阿波)に遷し奉る。ホ、朝廷御方の朝臣武士を斬流し領地を行貧す。

二、六波羅 南北兩六波羅に府を開き其族を世々探題とし朝廷を抑制し京畿の動靜を監視せしむ。

質素、儉約、仁政を施し下民を愛撫す。

政所に評定衆を置き政事を議せしむ。

貞永式目五十一條を定む武家法制の根本なり(後堀河天皇貞永元年一八九二)

五、泰時の治績

- 1. 政治
- 2. 官職
- 3. 法制

式目の制を守りて政を行ふ質素にして仁政を施す。

賴經—賴嗣—宗尊親王。

子時宗に譲り剃髮微服四方を漫遊し政治の良否人民の安否を問ふ風化大に行はる。

六、時頼の治績

- 1. 政治
- 2. 將軍
- 3. 風化

(附説)：時頼最明寺に閑居し最明寺入道の名あり。

一、衣服飲食邸宅：皆質素簡易を貴ぶ。

二、遊技：犬追物、笠懸、流鏑馬等勇壯なるを選ぶ。

質朴、剛健、文事を修めず、禮儀に疎かなるも

三、氣質 廉耻を貴び、氣節を練り、弓馬武術を練り、君

前の死を名譽とす。

習慣：華奢文弱に流れ文藝遊樂に耽る。

將軍迎立、六波羅府設置等の爲め兩風俗相混ぜんとするの傾

あるも泰時、時頼力めて勤儉尙武の風を奨勵す。

一、衣食住：共に簡易疎略なり。二、武技：最も盛なり。

三、武士道：漸く起る。四、武器製作：刀劍製作大に進歩す

七、鎌倉武士と京都公卿及び風俗

- 1. 武士
- 2. 公卿
- 3. 京都
- 4. 風俗

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

八、鎌倉時代の  
教育文學及  
び美術

1. 武人教育

武技を鍛ふも學問文字なく教育殆んどなし。  
金澤文庫(武藏國)：北條實時(義時の孫)の建つる所、和漢の書を集め教育をせしも一部分のみ。

(附説)

2. 僧侶

一般に教育あるは僧侶のみ(特に禪宗の僧)  
正しく書き綴るもの乏し。

3. 漢文

時勢に連れて勇ましき事實、奇抜なる文章となりたり、保元、平治物語、源平盛衰記の如し。

4. 國文

鎌倉時代の初めには藤原俊成、同定家、同家隆、僧四行、後鳥羽天皇、右大臣實朝の如き名人ありしも後に衰ふ。

5. 和歌

彫刻の名手：運慶、快慶、湛慶(我國彫刻の最名手)等佛像を造る。

6. 美術

繪畫の名手：土佐光長(土佐派の祖)藤原信實等有名あり

1. 起

因

佛教は時勢に連れ卑近にして修行容易なる新派起る。

九、鎌倉時代の  
宗教の新派

2. 宗派

派

一、踊念佛：平安朝末空也上人より始めらる。

二、淨土宗：高倉天皇の時僧源空(法然上人)之を始め。

三、淨土眞宗 (一向宗)：僧範實(親鸞上人)之を始め肉食妻帯を許す。

四、法華宗：後深草天皇の時僧日蓮之を唱ふ。

五、時宗：同時に僧智眞(一遍上人)之を開く。

六、禪宗 僧榮西弟子道元支那より傳ふ、上流社會に行る臨濟派曹洞派等あり。

一、蒙古の強大なる。土御門天皇の時蒙古に鐵木眞(成吉思汗)起り四方を侵略し歐亞に威を振ふ其孫忽必烈益強大となる。

1. 原因

一〇、元寇

2. 結果

一、蒙古の傲慢

龜山天皇の文永五年（一九二八）忽必烈無禮なる國書を我に送り我を従へんとす。

二、吾の警戒心

朝議此書に報せず鎌倉の執權北條時宗西國に令して邊備を嚴にし再三來れる使を放逐し天皇伊皇大廟に祈りたまふ。

三、文永の役

文永十一年後宇多天皇の御時元主戰艦四百五十隻高麗の援兵とを帥ひ來り對馬壹岐の守護代を殺し博多に迫り火器を以て大に我を苦しむ會々暴風大に起りし爲め夜逃れ去る。

四、九州探題

元主二回使を送る時宗皆之を斬る北條實時を九州探題とし益守備を嚴にす。

弘安四年（一九四一）元軍十餘萬范文虎將とふり

四、弘安の役

壹岐を侵し博多に迫る我軍善く防ぎ戦ひ兩月に及ぶも上陸するを得ざらしむ會々颶風起り敵艦覆没し我兵之れを掩撃す生還するもの僅かに三人なりと言ふ。

五、舉國一致

此役舉國一致大敵に當り能く我國光を發揚せり然かも軍費等の爲め國力大に疲弊し北條氏人心を失ふの原因となる。

後嵯峨天皇は龜山天皇の英資なるを愛し、御後永く大統をつぐべく遺詔したまひ、後深草天皇の後は皇位を望むなからしめ長講堂領百八十ヶ所を授く。

龜山天皇御子後宇多天皇に譲りたまふ後深草上皇御心平かならず時宗の力を借り御伏子天見具

二、兩皇統の交立

1. 原因



鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

2. 事實

一、皇統

を立てたまひ伏見天皇又貞時に諭し御子後伏見天皇を立てたまふ後宇多上皇喜び給はず後醍醐天皇の遺詔に違ふことを貞時に責め給ふ。

貞時因りてイ、後深草天皇御後…持明院統。

二、統と大覚寺統

持明院

口、龜山天皇御後…大覚寺統。交立すべきを定め後二條天皇(後宇多天皇の御子)を立て奉る。

三、大覚寺統

次は花園天皇(持統)後醍醐天皇(大統)となる。

1. 目的

鎌倉政府の目的は攝家の力を割き微弱ならしむるにあり。一、頼朝は近衛九條の二家交々攝關たることと定む。

二、五攝家

2. 事實

一、實

二、後イ、九條

1 九條  
2 二條に分れ口、近衛  
3 一條

4 近衛  
5 鷹司に分る

3. 結果

果

…皇室朝臣相分争し南北朝の大亂となる。

北條高時、暗愚、日夜遊宴に耽り、政治行き届かず家宰長政の失時高資政刑當を失し幕府の威信地に墜つ。

1. 原因

一、大覚寺統の御料…上皇となりて御料少なく費用に苦しむ

二、後醍醐天皇英邁、北條氏の專横を憤り日野資朝、同俊

三、頼朝の御企、基と謀り武人と結ばしむ謀泄れ二人殺さる。

四、頼朝の御憤、皇太子の事にて高時天皇の御意に従はずして願

みず天皇御憤あり叡山南都の僧徒を懷けたまふ

元弘元年(一九九一)高時大軍を以て京都を攻む

天皇笠置に遷幸す高時光嚴天皇を立て後醍醐天皇を隱岐に遷し奉る。

一、遷笠置

幸置

天皇笠置に遷幸す高時光嚴天皇を立て後醍醐天皇を隱岐に遷し奉る。

一三、元弘の役

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

鎌倉幕府創立—北條氏滅亡

古 近 66

2. 結果

- 一、諸勤將王
  - イ、楠木正成…赤阪より金剛山に城を築き幕兵を破ること屢々なり。ロ、護良親王…十津川より吉野に出て令して義兵を擧げしむ。ハ、菊地武時…九州に奮起す。ニ、赤松則村…播磨にホ、土居、得能の二氏…伊豫に起る。
- 三、官軍
  - 天皇隱岐を出て名和長年に依りたまひ官軍をして京に向はしむ。
- 四、北條氏滅亡
  - 足利高氏は歸順し則利等と六波羅を攻陥し新田義貞は上野に起り鎌倉を攻め高時一族皆自殺す時に元弘三年(一九九三)五月なり。

近古 (中…建武中興より南北兩朝合一まで)

一、建武中興

- 1. 政治
- 2. 中興の因

- 一、記録所…天皇萬機を親裁す。
- 二、雜断決断所…所領の紛争を處分す。
- 三、征夷大將軍…護良親王之れに任ず。
- 四、關東鎮撫…成良親王は足利直義を副へ鎌倉にあり。
- 五、奥羽鎮撫…護良親王は北畠顯家を副へ陸奥にあり。
- 六、論功行賞…公卿武將各功により賞を行ひ國司も再興せり

公卿武人の争る。公卿は武人の勢力を嫉み、武人は公卿の驕慢を憤る。

- 二、新政弊
  - イ、内謁。ロ、倫言反覆。ハ、恩賞不公平。
  - ニ、大内造營財政欠乏。ホ、重税。

建武中興—南北朝合一

67 古 近

建武中興—南北朝合一

二、足利尊氏  
の叛逆

1. 原

因

(附説) 藤房隱遁…天皇藤房の忠言を用ひ玉はざるに因る  
尊氏の異志…尊氏源氏の族中己の勢望あるを恃み又天皇は中  
興の功を第一に歸し御名の一字を賜ふ然も頼朝の霸業を繼が  
んとするの志あり内謁をなし又私恩を以て武人を懐く。

一、護良親王の幽閉…尊氏親王を讒して鎌倉に幽閉し奉る。

二、足利直義の弑…北條時行の亂、直義破れ西奔するの時、護良親王  
を弑し奉る。

三、尊氏叛形成る…尊氏、直義と時行を殺し鎌倉に府を開き、自ら征  
夷大將軍東國管領と稱す。

四、尊氏の敗…義貞勅を奉じ尊氏を討ち竹下の一戦敗れ京師に  
還る尊氏等之れを逐ひ京師に入り天皇叡山に幸  
す次て北畠顯家義貞正成等共に尊氏を破り京師

2. 經

過

(を復す。

五、尊氏の東上…九州に遁れたる尊氏兄弟は 光嚴上皇の院宣を乞  
ひ大舉東上す。

六、官軍の敗戦…正成湊川に血戦して死し、義貞破れ、天皇叡山に  
幸し、尊氏等京に入る。

尊氏光明天皇(光嚴上皇の御弟)を立て奉る (持  
明院統)。

後醍醐天皇神器を奉じて密かに吉野に遷幸した  
まふ(大覺寺統)。

イ、新田義貞…恒良尊良兩親王を奉じて越前に  
あり。ロ、北畠顯家…義良親王を奉じて陸奥に  
あり。ハ、宗良親王…遠江にあり。ニ、北畠親

勤王  
諸將  
(南朝)

1. 分

立

事

實

一、

建武中興—南北朝合一

建武中興—南北朝合一

3. 結

(果... 合二)

事實

- 六、南朝四代：後醍醐：後村上：長慶：後龜山。  
(九州) (振へり)
- 七、北朝  
光嚴：光明：崇光：後光嚴：後圓融、(尊氏、直義相戦ひ功臣相闘ふ)。
- 一、後龜山天皇元中九年(後小松天皇明德三年)「二〇五二」足利義満、大内義弘を遣はし兩朝の和睦を請ひ奉る。
- 二、天皇許したまひ父子の禮を以て神器を後小松天皇に授けたまふ(分立五十七年)。
- 三、持明院統相次きて帝位に上りたまふ 大覺寺統の再興を圖るもの皆成らず南朝(絶ゆ)。

建武中興—南北朝合一

三、南北朝の分立及び合一

2. 經

(天下大過... に亂る)

- 二、忠臣死  
房：伊勢にあり。ホ、懷良親王：肥後の菊地氏親王を奉じて九州にあり。  
イ、義貞：延元二年(一九九八)金崎城陥り、翌年藤島に戦死す。  
ロ、顯家：和泉石津に戦死す(延元三年)。
- 三、後村上天皇  
後醍醐天皇戦亂の中に崩御あり義良親王立ちたまふ。  
イ、楠木正行戦死：正平三年(二〇〇八)高師直と四條畷に戦ひ戦死す。  
ロ、新田義興誘殺：矢口渡に誘殺さる。  
ハ、北畠親房病死：神皇正統記を著はす。  
懷良親王：菊地武光、少貳大友等と戦ひ、威大に
- 四、南朝  
振はず
- 五、征四府

(下の一……南北朝合一より群雄割據まで)

一、足利幕府より室町幕府

- 1. 足利幕府
- 2. 室町幕府の基礎

一、尊氏幕府を京に開き建武式目を定む。  
 二、義詮之を嗣ぐも戦亂の間にて根底固からず。  
 義満聰明英武、名臣細川頼之ヨリユキ之を輔く、根底や、固し。明德二年山名氏清を滅す、翌年南北朝合一し威令大に行はる。  
 (名稱)：義満新第を室町に營み幕府の地とす。

二、室町幕府の組織

- 1. 中央府
- 2. 地方官

一、大體：鎌倉幕府に同じ(政所、問注所、侍所もあり)。  
 二、三管領 執權に似たるも輕し將軍の輔佐役なり斯波、細川、畠山の三氏交代す。  
 三、四職：侍所の司ソカサなり赤松一色京極山名の四家交代す。  
 一、守護地頭：地方諸國にあり。  
 二、探題：奥州及び九州にあり。

三、關東管領 鎌倉は要領なれば尊氏の次子基氏初めて任ぜらる、上杉氏を執事とす、大に治まり鎌倉將軍鎌倉管領の名あり。

三、義滿の驕奢事

實

四、應永の亂

- 1. 原
- 2. 計

因書

一、兩朝合一：天下少康を得たり、故に心驕る。  
 二、僭越なり：將軍職を子義持に譲り自ら權威を弄し出入の儀式皆上皇に擬し公卿皆其下に屈從す。  
 三、大工事を起す：花御所、鹿苑院(俗に金閣寺)等の如し。  
 四、遊宴に耽る：猿樂、謡等の如し。  
 大内義弘勢力を恃みて驕慢なり。一、今川貞世と九州を定め。  
 二、叛臣山名氏清を討ち功あり。三、周防、長門等六ヶ國の守護となる。四、兩朝合一に盡す。  
 應永六年(二〇五九)關東管領滿兼と謀を合せ東西並び起らん

五、外

交

3. 結

果…義滿の爲めに敗られ死す。

1. 倭寇

…(とし和泉の堺に據る。)  
…四海沿岸の徒、支那沿岸を掠め前後相次ぐ、明人大に恐れ其船を八幡船と言ひ戰慄す。

2. 義滿の大失體

…貿易の利を得んとし明と好を修め犯すものを捕へしめ又明主より日本國王の封冊を受け自ら臣と稱す(義持は其交通を絶つ)。

3. 交

通…勘合符を持ちて貿易船(實は貿易船)を遣はす。

1. 由

來…將軍義教…僧義圓還俗して將軍となる剛毅果斷なり。

六、永享の亂

2. 原

因…鎌倉管領持氏の失望…已れ將軍たらんことを望みたりしが義教將軍となりしを見て幕府をしのぎ將軍を輕蔑し暴行甚だし。

七、嘉吉の亂

3. 結

果…執事上杉憲實極諫す…持氏怒りて之を攻撃す、義教兵を遣はし憲實を助けて持氏を討たしむ、永享十一年(二〇九九)持氏自殺す。

1. 原

因…義教驕慢となり播磨の守護赤松滿祐の領地を寵臣赤松貞村に與へんとす。

2. 結

果…一、滿祐怒り義教を弑し自ら白旗城に據る。二、山名持豐滿祐を誅す「嘉吉元年(二二〇一)」。三、赤松氏亡び山名氏興る實…細川勝元、山名宗全との戦なり。

1. 事

幼主と權臣…將軍義政幼にして實權畠山持國、細川勝元等權臣の手にあり、山名宗全功を恃み專恣なり。  
將軍義政長じて政事を勉めず奢侈逸樂に耽り性暗愚、優柔、定節なく愛憎常なく賞罰不當なり。

2. 原

因…(遠因)

### 八、應仁の亂

#### 3. 原

(近因)

- 一、斯波氏家督争…義廉と義敏と相争ふ。
- 二、畠山氏家督争…政長と義就と相争ふ。
- 三、將軍家  
家督争…義政子なし弟義視を嗣とす、勝元其執事たり、夫人富子義尙を生む、之を立てんとして山名宗全に依頼す。

#### 4. 戰

亂

- 一、時代…後土御門天皇の應仁元年(二二二七)なり。
- 二、勝元方…政長義敏—軍勢十六萬餘(東軍)義政を擁す。
- 三、宗全方…義就義廉—軍勢十一萬餘(西軍)義視を招く。
- 四、勝收常なく戰鬪虛日なし。
- 五、京師の惨狀…兵起りて凡そ十一年京師の宮殿、社寺、民屋兵火に罹り寶器、文書の燒亡無數なり。

#### 5. 結

果

幕府の威令行はれず、貢租を納むるものなく、財

### 九、關東分裂

#### 1. 古

方河

三、天擾亂…政窮乏し天下擾亂の源となる。  
後花園天皇寶徳元年(二二〇九)上杉氏義政に請ひ、足利成氏を主とし上杉憲忠(憲實の子)を執事とせり然かも成氏憲忠を殺し下總の古河に居たり。

#### 2. 堀

方越

足利政知(義政の弟)迎へられ關東の主となる、堀越(伊豆)に居たり、山内、扇谷の兩上杉管領となる。

#### 3. 兩公方の争

政知、成氏と戦ひしも微力にして振はず。

(附説)

太田持資(道灌)扇谷の家臣にして文武の才ありしも讒に遭ひて殺さる。

#### 4. 兩上杉の争

兩家連年相争ひ關東益亂れ堀越家彌々微力なり。

#### 5. 北條早雲(伊勢長氏)

起り堀越家を亡し伊豆、相模を取り勢大に振ふ。

- 一、奢侈。二、風流。三、濫費。四、重税。五、所謂徳政

10、東山時代の美術工藝文藝學

1. 義政失政の（借りて償はず）。六、負債（明國よりす）。七、銀閣寺。事 實ハ、茶會。

2. 美術

- 一、繪畫
  - イ、如拙。ロ、周文。ハ、明兆（兆殿司）。
  - ニ、小栗宗湛。ホ、雪舟（第一流）。
  - ヘ、狩野元信（當時第一流古法眼狩野家起る）。
  - ト、土佐光信（土佐家中興）。

- 二、書：尊圓法親王（御家流の基）。
- 三、漆器と蒔繪：東山時代物。
- 四、金屬彫刻：妙手は後藤祐樂。

3. 工藝

- 一、瀬戸焼：鎌倉時代加藤四郎左衛門景正支那より初めて陶器を傳へ茶道と共に名人輩出す。
- 二、唐津焼：祥瑞五郎大夫明より磁器の製法を傳ふ。

4. 文學

1. 朝廷の衰微

- 一、學者一條兼良（日本書記纂疏）。北畠親房（神皇正統記）  
僧師鍊（元享釋書）。
- 二、和歌：兼好、頓阿、一休和尚、太田道灌。
- 三、漢詩：僧談堂、絶海。
- 四、論山：觀阿彌、世阿彌。
- 五、連歌。六、俳諧の端緒。七、御迦草子。八、狂言。
- 九、金澤文庫、足利學校の再興。
- 一〇、供御不十分、皇居の修繕不完全、朝廷の大禮行ひ難し。
- 一一、公卿：領地を失ひ諸國に流落す。
- 一二、後奈良天皇  
内裏の御築地崩れ宮室破壊し、紫宸殿前、市皇の御時人、足を入るゝに至る。
- 一三、將軍義尚：恢復の志果さず早世す。



足利氏末  
世朝廷の  
衰微及び  
京畿の亂

2. 幕府路の

三、義植：出奔して大内義興に依る。  
 四、義晴：出奔すること前後數回。  
 五、義昭：松永久秀に弑さる。  
 信長に逐はれ幕府滅ぶ（尊氏より二百三十六年）  
 （正親町天皇天正元年…二二三三）

3. 細川氏

一、政元  
 將軍義植の時細川勝元の子政元管領政長と權を  
 争ひ政長を殺し義澄を迎へ將軍となす。  
 二、内訌  
 政元管領となり、二養子澄之澄元黨争し、澄之  
 の爲め政元も弑せられ細川氏大に亂る。  
 細川氏の亂を聞き義植を奉じ軍職に就かしめ京  
 に留まること十一年、幕府の威やゝ張らんとし  
 歸國の後間も無く義晴將軍となる。

4. 大内氏

一、義興  
 後奈良天皇御即位の資を獻じ奉る。  
 細川氏の家臣にして阿波より京に入り晴元を管  
 領となし威大に振ふ。

5. 三好氏

一、元長  
 細川氏の家臣にして阿波より京に入り晴元を管  
 領となし威大に振ふ。  
 二、長慶  
 將軍義輝の時權を弄し幕府あれども無きが如し  
 三、松永久秀  
 長慶の臣將軍義輝を弑し義榮を將軍とす。  
 京には將軍家管領家の内訌絶へず、地方には群雄割據し、強  
 弱相争ふ。

1. 大

一、大要  
 京には將軍家管領家の内訌絶へず、地方には群雄割據し、強  
 弱相争ふ。  
 羽・豪族 南部、伊達、最上、葦名、伊達氏最も強大。

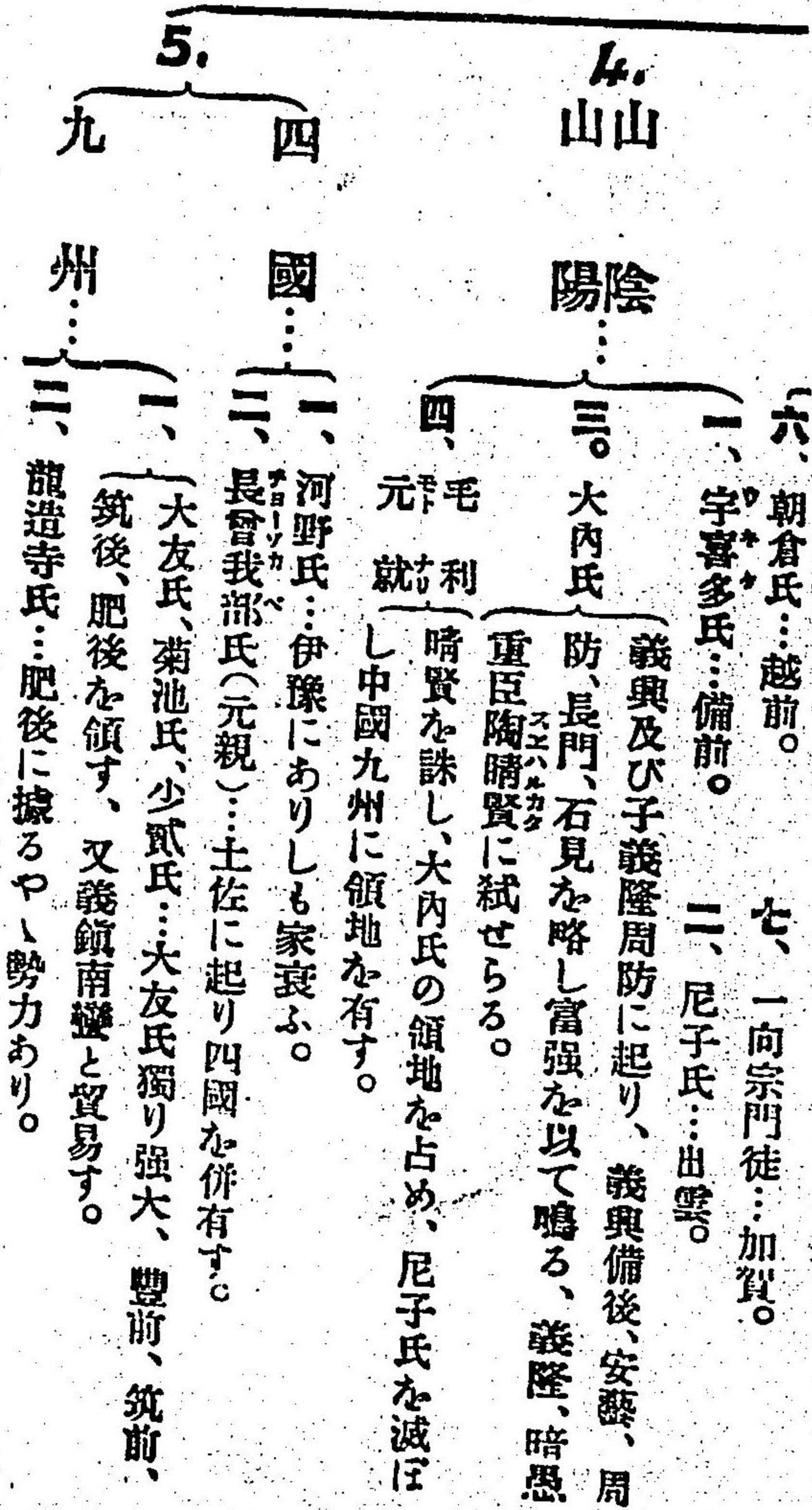
2. 奥

北條氏と公方…北條早雲勢力大に氏綱、氏康善く兵を用ふ、堀  
 越公方は早雲の時に滅び、古河公方は氏康に滅ぼされ、八州  
 の地北條氏に歸す。

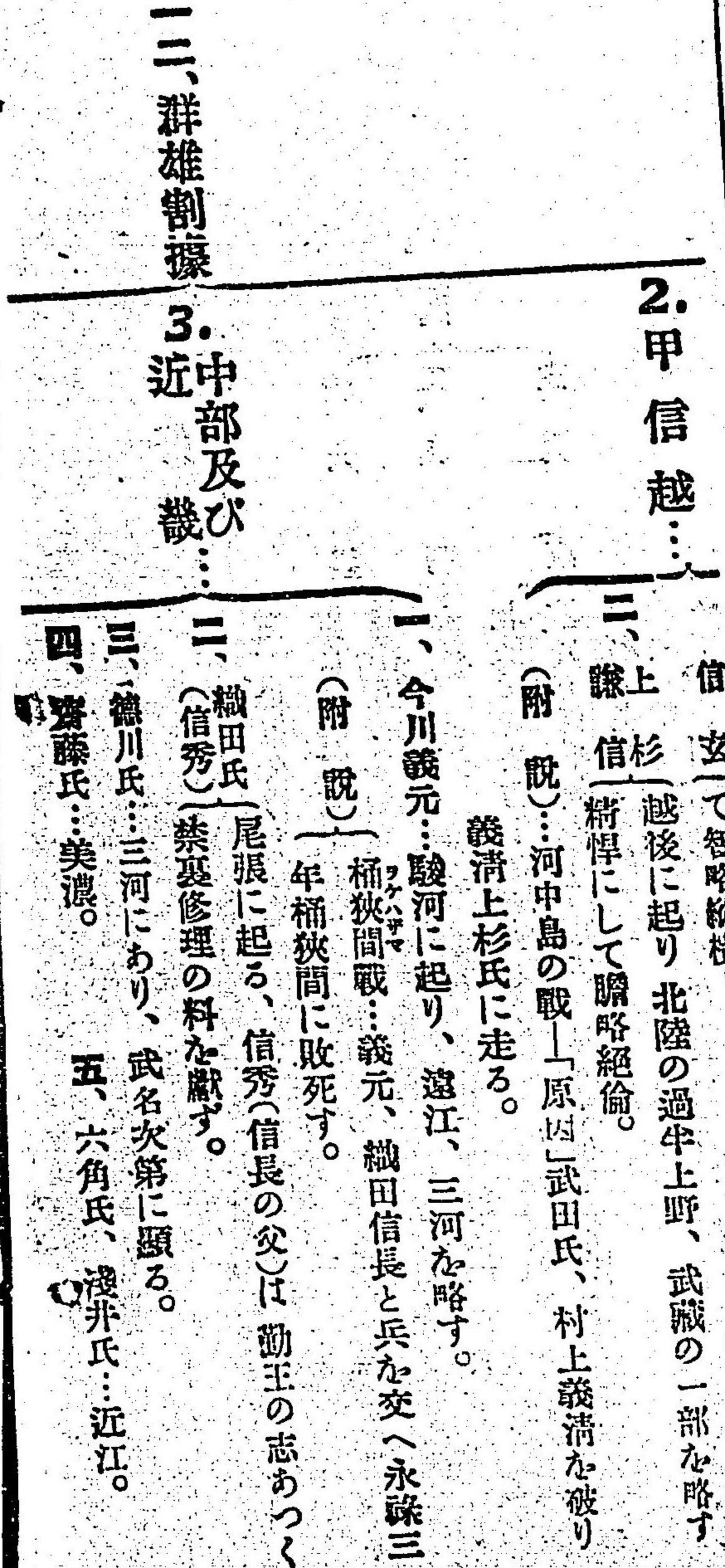
3. 關

一、武田  
 甲斐に起り信濃其他の接近地を略す、沈毅にし

南北朝合一 群雄割據



南北朝合一 群雄割據



一三、群雄割據時代の外交及戰術

- 1. 南蠻の來
- 2. 鐵砲の來
- 3. 戰術の進歩

三、島津氏

薩摩、大隅を領し義久は大友、龍造寺を破り九州の大半を領す。

天文十年(二二〇一)葡萄牙人薩摩に來り、次に西班牙人等の商船皆南方より來り殖民貿易を事とす。

後奈良天皇天文十二年(二二〇三)葡萄牙人「ピントー」等種子が島に來り始めて鐵砲を傳ふ。

戰亂の世なれば武具、兵法大に進歩す、鐵砲は戰術の一新紀元なり。

近古(下の二)……織田信長上洛より朝鮮征伐まで

1. 西上

一、密勅降る…正親町天皇朝廷興復の旨を勅使を以て傳ふ信長感激命を拜し西上を計る(信長、今川義元を滅し威名大に振ふ)、二、西上準備…好を徳川家康に通じ武田信玄と和睦し後顧の患を除き齋藤氏を滅ぼし岐阜に居る。

一、將軍義昭(義輝の弟)を奉じ大舉西上し京を定め法令を嚴行し羽柴秀吉をして京を守護せしむ。二、姉川の戰…越前の朝倉義景を討たんとす、近江の淺井長政及び山法師等又義景に應ず、信長徳川家康を招き元龜元年(二二三〇)姉川(近江)に戰ひ義景を破り翌年叡山を燒く。三、足利氏滅亡…義昭、信長の威名を忌み之れを除かんことを圖り却つて攻められて出奔す。四、近畿の平定…淺井朝倉及び長島の一向

2. 近畿平定

織田信長上洛—朝鮮征代

一、織田信長の事業

3. 近隣の強敵平定

宗徒を平げ本願寺と和す。五、居城(安土城)：天正四年に築く七層の天主閣を設く。  
一、北條氏康：元龜元年に卒す。二、武田信玄：家康參河遠江を定め濱松に居り信玄屢々遠江に攻め入り、元龜三年家康三方が原に大敗したれども翌年信玄卒す。三、上杉謙信：幾くもなくして死す。四、武田勝頼：信長、家康共に勝頼を滅ぼし瀧川一益東國を鎮む。

4. 秀吉の西征と逆

一、毛利氏：信長、秀吉をして中國に兵を出さしめ毛利氏を討たしむ、秀吉連捷備中高松を圍み兵威中國に振ふ吉川、小早川兩將毛利輝元を擁し來援す秀吉援を信長に請ふ。二、本能寺の變：信長子信忠と入京す明智光秀叛し父子本能寺に弑せらる。

5. 事業大要

1. 山の崎の戦

一、勤王：皇居造營、朝儀再興、公卿復興、供御獻上等のことあり。二、敬神：伊勢神宮改造の式典。三、治國：天下治平信長の計を聞き秀吉毛利氏と和し織田信孝と合し光秀を山崎に破り信忠の子秀信を立て信雄を輔佐となす。

2. 賤ヶ岳の戦

信雄。信孝相善からず柴田勝家、瀧川一益信孝に結び秀吉を忌み之れを除かんと欲し兵を擧げ天正十一年秀吉大に勝家の兵を賤ヶ岳に破り勝家、信孝自殺し一益は降る。

3. 小牧の戦

信雄秀吉を忌み家康に結び之を除かんとす天正十一年小牧に陣し秀吉の兵を長久手に敗ぶ秀吉之れと和す。

4. 四國平定

天正十二年長曾我部元親を破り之を降す。

5. 關白大臣の政

同年關白に任ぜられ後陽成天皇天正十三年太政大臣に拜せられ姓豊臣を賜はる。

二、豊臣秀吉の順序

織田信長上洛—朝鮮征伐

三、秀吉の建築  
と政治

- 6. 北陸平定…上杉景勝秀吉に服す。  
大友龍造寺義へ島津氏盛なり天正十五年大舉西征島津義久を降す。
- 7. 九州平定…  
徳川家康、織田信雄諸將を率ひ、大軍北條氏を小田原城に降す。
- 8. 小田原平定…
- 9. 東北平定…伊達政宗また來り降る。
- 1. 建築…
  - 一、壯大堅固なる大阪城。
  - 二、華麗なる聚樂第ジユワ（行幸を仰ぎ諸將忠誠の盟約をなさしむ）。
  - 三、皇居の修理。
  - 四、方廣寺。
  - 五、伏見城（居城）。
- 2. 政治…
  - 一、五大老…大事を議決せしむ。
  - 二、五奉行…政務を管せしむ。
  - 三、量制…を改め全國田地の石高を定む。
  - 四、幣…大判小判を鑄造し貨幣を一定す。
  - 一、海内已に一統す更に明を征せんとす。
  - 二、使を朝鮮に遣はし征明の嚮導たらしめんとす朝鮮王應ぜず因て先づ朝鮮を征し而して後明を伐たんとす。
  - 一、關白を養子秀次に譲り自ら太閤と稱す。
  - 二、後陽成天皇文祿元年（二二五二）行營を肥前名護屋に構へ親しく軍を指揮す。
  - 一、總大將…宇喜田秀家。
  - 二、陸軍先鋒…加藤清正。小西行長。
  - 三、水軍…九鬼嘉隆クキヨシカ、藤堂高虎。
  - 三、總軍…十三萬人。

織田信長上洛—朝鮮征伐

- 1. 目的…
- 2. 準備…  
(文祿の役)
- 三、部署…

四、朝鮮征伐

3. 結

果

二、

和約  
(破る)

一、戦況

ロ、

連戦連捷：行長平壤を取り、清正、咸鏡道に入り、二王子を擒にし、八道我に従ふ。  
明援軍敗る：行長迎撃大に明軍を破る、沈惟敬和を乞ふ。

ハ、

碧蹄館の戦：明將李如松、大軍を率ゐ來り、行長等退く、小早川隆景等大に李如松の軍を破る。

イ、

明大に恐れ和を乞ふ我々、戦に倦み行長惟敬の巧辯に欺かれ、秀吉に勸めて和約成る、秀吉軍を歸らしめんとす。

ロ、

慶長元年(二二五六)明の使者伏見城に來る、國書秀吉を日本國王に封すとあり、「又朝

三、慶役長

イ、

鮮二皇子の來謝せざりしにより「秀吉怒りて使者を逐ひ和約破る。  
慶長二年小早川秀秋を總大將とし再び出征す。

ロ、

蔚山其他諸處明軍を破る。  
慶長三年秀吉薨じ、在韓諸將遺言により空しく歸國す。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

近世 (關ヶ原役より江戸幕府滅亡まで)

一、徳川家康

- 1. 來
- 2. 出
- 3. 威

1. 原

因

歴：徳川氏は源義家の孫、義重の裔なり。  
 代々三河にあり家康幼にして辛酸を嘗め長じて三河、遠江を  
 平げ濱松に居り駿河、甲斐、信濃を併せ小牧の舉以來名望重く  
 北條氏滅ぼされ關東八州家康に與へられ居城を江戸に定む。  
 關白秀次死を賜はり秀吉薨じ秀頼尙ほ幼五大老、五奉行に後  
 事を託し氏康、利家(前田)等に秀頼を輔佐せしむ利家薨じ秀  
 康威望豊臣氏を壓するばかりなり。  
 (附説)：五大老：徳川家康、前田利家、毛利輝元、宇喜田秀家、上杉景勝  
 石田三成(五奉行の一人)家康の威望を忌み豊臣氏に禍せんこ  
 とを慮り之れを除かんことを謀る。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

二、關原の戰

- 2. 準備
- 3. 結果

3. 結果

一、會戰  
 一、西軍伏見城を陥れ美濃に入る。  
 二、家康直に四上し關ヶ原に戦ふ。  
 三、小早川秀秋背き毛利秀元亦西軍を援けず。  
 四、西軍大敗三成、行長は斬られ輝元、義弘、景勝は降る。

二、準備  
 一、三、毛利輝元、宇喜多秀家、上杉景勝等と結託す。  
 二、慶長五年上杉景勝會津に歸り家康に抗す家康之れを征す三成其虚に乗じて兵を募る。  
 三、三成方 宇喜多氏、島津氏(義弘)大谷吉隆、小四行長等(西軍)なり毛利輝元盟主たり總勢十二萬八千人。  
 四、家康方 福島正則、黒田長政、淺野幸長等にて總勢七萬五千人。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

三、豊臣氏の事

實

三、賞罰

一、秀頼：尙ほ幼なるを以て罪を問はず、攝河泉六十五萬石を與ふるのみ。

二、諸大名配置：四軍諸將の地を削り、或は功臣を封じ譜代大名、又は徳川氏の親族は天下の要地に置き、外様大名は僻遠の地に移せり天下の大權家康に歸せり。

一、江戸幕府の創立：慶長八年徳川家康征夷大將軍となる三年の後子秀忠に譲り大御所と稱し駿府に退居し大事は與かる。

二、淀君、鐘銘事件：秀頼長じ片桐且元輔導す淀君徳川氏を惡み寵臣大野治長と密謀し諸侯、豪族豊臣氏を思ふもの又相和す偶々方廣寺の鐘銘(國家安康)事件起る。

三、大阪冬陣：慶長十九年遂に兵を擧ぐ家康、秀忠大阪を圍む和議成る。

四、大阪夏陣：翌元和元年(二二七五)又兵を擧ぐ眞田幸村後藤基次、木村重成饒名あるも號令一ならず諸將死し秀頼母子自殺し豊臣氏全く亡ぶ。

一、家康周密政治の術に長じ施設宜しきを得たり。

二、武家諸法度：諸大名以下を檢束す。

三、公家諸法度(禁中方諸條目)：公家を抑制す。

四、陽には篤く皇室を尊崇す、イ、皇居を造營す。ロ、供御の地を獻ず。ハ、廢典を興す。

陰には朝廷の實權を削き奉る、イ、所司代を置き朝廷を窺はしめ。ロ、諸侯の京都に出入するを戒む。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

四、徳川幕府の組織(一、家康)(二、秀忠)

- 1. 政治：家康周密政治の術に長じ施設宜しきを得たり。
- 2. 諸法令：武家諸法度：諸大名以下を檢束す。
- 3. 朝廷に對する方針：公家諸法度(禁中方諸條目)：公家を抑制す。

三

四

三

一

二



關ヶ原役—江戸幕府滅亡

4. 日光廟

家康薨じ日光に祀り東照大権現の號を賜はる。

5. 秀忠

忠・謹厚よく守成の業をなす。

1. 權勢

家光豪邁名臣土井利勝、松平信綱、阿部忠秋等なり。

2. 中央部

一、重職

イ、大老 必ずしも常置せず將軍を輔佐し政務を總括す。

ロ、老中 執政なり。

ハ、若年寄 參政なり。

以上譜代大名より補し用部屋ヨウベツヤに會して大政を裁決す。

二、三奉行 一、勘定奉行。ロ、寺社奉行。ハ、江戸町奉行

三、大目付及び目付 監察糾斷を掌る。

(評定所 老中、三奉行、大目付共に重大の獄事を斷ず。)

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

五、徳川幕府の組織

3. 地方部

一、所司代 京都に特置す禁裏を守護し關西を控制す。

二、城代 大阪二條駿府に置く。

三、奉行 奈良、伏見、長崎、佐波等の要地に置く。

四、郡代、代官 幕府直轄の地に置く。

一、外様 徳川氏の家臣にあらざるもの。

二、譜代 家臣の諸侯となりたるもの。

三、親藩 尾州、紀州、水戸の三藩は家康の子義直、賴宣、賴房に起る御三家の名あり。

四、外様のもの

イ、奥羽(上杉、伊達、佐竹)。ロ、北陸(前田)。

ハ、山陰、山陽(毛利、池田)。ニ、四國(山ノ内、蜂須賀)。ホ、九州(島津、鍋島、黒田、細川)。

4. 諸侯の配置

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

六、天  
傳主  
播教

- 1. 始 め
- 2. 傳 播
- 3. 結 果

五、**交 代 勤**  
 外様大名を威服し權力を中央に集めんが爲め諸侯をして邸宅を江戸に造り妻子をこゝに置き參勤交代せしむ。

後奈良天皇(二二〇八)の御世ゼスイト團體の宣教師フランソア、サヴィエー鹿兒島に來る島津氏の許可を得て之れを弘む。葡萄牙人、西班牙の天宗教は非望を懷くもの多く九州より東方に波及し遂に奥羽にまで及ぶ。

- 一、**織田 信長** 之を信じて保護を加へ京都に南蠻寺を建てしが後に悔ゆ。
- 二、**豊臣秀吉** 其布教を禁じ南蠻寺を毀つ。
- 三、**徳川家康** 其非望を知り嚴禁す。

四、**徳川 家光** 島原の亂ありて益々禁を嚴にし<sup>シム</sup>門改をなし踏繪を踏しむ。

1. 朝 鮮…開國の方針を取り朝鮮と外交を温む(家康の時代)。

2. 琉 球…島津家久をして琉球を招かしむ應ぜず家久討ちて其王を擒にし島津氏の領地となる。

3. 明…國交を再興せんとせしが彼應ぜずされど商船は常に往來す。

一、葡萄牙人、西班牙人は足利氏の末より通商す。

二、オランダ人…東洋貿易を初め遂に我國に來る。

三、イギリス人…又來りて通商をなせり。

一、邦人又渡外するもの多く其船を御朱印船と言ふ。

5. 渡 邦 人 外 支倉常長(伊達政宗の臣)主命を受け遠くローマに使う。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

七、外  
交

- 1. 朝 鮮
- 2. 琉 球
- 3. 明
- 4. 西 洋
- 5. 渡 邦 人 外

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

(御朱印船)

6. 鎖國

三、山田長政：シヤムに至り日本町を立て又邦人を率ゐ國亂を鎮定す。四、濱田彌兵衛：臺灣に渡り和蘭人を懲らせり。

一、原因：島原の亂による(家光の時代)。

イ、海外渡航を禁じ。ロ、造船に制限を附し。

ハ、外人の渡來を拒絶し。ニ、支那、オランダ

二、結果

二國人のみ長崎來航を許す。ホ、明末の歸化人僧隱元黄檗宗を傳へ鄭芝龍、鄭成功亦皆明の遺臣なり。

八、島原の亂

代：明正天皇の寛永十四年(二二九七)將軍家光の治世。

2.1. 原

因：教禁を益嚴密にせしによる。

果：一、愚民を煽動し島原半島の原城による軍凡三萬五千人。二、板倉重昌之れに戦死し松平信綱之れを討滅す。

九、由井正雪の變

來：家光薨じ子家綱の幼なるに乗じて亂を謀る。計：浪士由井正雪、丸橋忠彌相謀る成らずして誅せらる。

一、家康の奨助

イ、藤原惺窩(肅)：儒學中興の祖。學を講

ロ、林 羅山(信勝)：惺窩の門人。せしむ

ハ、學校を起す。

ニ、書籍の散亂せるを集め出版せしむ。

イ、德川 光圀 (家康の孫)：明の朱之瑜を聘して學ぶ又大日本史を編す安積澹泊、栗山 潜鋒等の學者による。

ロ、德川 義直(尾張)：皆文教を興す。

ハ、德川 頼宣：皆文教を興す。

1. 家康

二、諸藩

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

文學の復興有名なる漢學者及國學者

2. 綱吉時代

三、天朝 後水尾、後光明、頼元三天皇皆儒道を重んじ學を講じたまふ。

聖堂：湯島に建つ孔子を祀り林信篤(鳳岡)を大學頭とし又自ら經書を講じ士民の參聽を許す。

一、中江藤樹(寛永)：世に近江聖人と云ふ(陽明學派の人)

二、熊澤(藤樹の門人)：備前侯池田光政に仕へ經世の才蕃山に富む。

三、野中兼山：土佐侯山内忠義に仕へ善政を行ふ。

四、山崎闇齋。(垂加流の神道) 五、木下順庵。

六、伊藤仁齋、及于東涯……………(以上京都)。

七、荻生徂徠(江戸)。八、新井君美。九、室直清(順庵高弟)

一〇、(原信篤(益軒)：博學假名交りの著書多し)。

3. 漢學者

4. 其國學他者

一、北村季吟(近江の人)和歌、和文に有名なり。

二、僧契沖 難波の人、古語を研究し始めて國學を起し光圀の依頼により萬葉集を註す。

三、松尾芭蕉…俳諧。 四、近松門左衛門…戯曲。

五、宮崎安貞…農學者。

一、晩年政治に倦み庶政を柳澤吉保に委す。二、奢侈遊宴。

三、佛法を信じ施與を好み寺院を建立す。四、迷信に陥り子なきを憂ひ殺生を禁斷し犬を養ふ。五、財政空乏…弊政に加ふるに天災地變失火等の爲め。六、貨幣の改鑄(元祿大小判)

一、幕府の初は浮華優柔を排するも今は奢侈華美となる。初めは朴實廉耻を重んじ信義を守りしも今は太平安逸に馴れ勤儉尙武の風を失ひ浮華柔弱となる。

二、

二、元祿時代 (綱吉時代)

1. 弊政

2. 元祿の風時

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

元祿時代の美術工芸風俗

1. 概観

奢侈に流れ衣服、器具皆華美を競ひ美術、工藝大に進歩せり

一、浮世繪：岩佐又兵衛初む。二、狩野派：狩野探幽。

以上家光時代

三、蒔繪：本阿彌光悅。

四、畫家：菱川師宣、英一蝶、尾形光琳。

五、蒔繪：光琳又名人なり常憲院時代物の名あり。

以上綱吉時代

一、衣類：袖長く帶廣く友禪染起る。

二、遊觀物：淨瑠璃と芝居。

三、男伊達：市中を横行せり。

四、仇討：また行はる。

(赤穂義士)

元祿十五年十二月赤穂の城主淺野長矩の遺臣大石良雄等四十七人吉良義央を討つ。

新井君美(白石)の事蹟

1. 時代

綱吉薨す家宣將軍となる中御門天皇の御世なり間部詮房。新井君美之れを輔佐し大に前代の弊政を改む。

一、元祿の惡貨弊(乾字金)を改鑄す。二、外國貿易の額を定め金銀の流出を防ぐ。三、朝鮮使節の禮遇過ぎたるを改む。

四、四親王家となす親王家は伏見、京極、有栖川の三家なりしが建議して閑院家を置く。

三百餘種あり有名ふるは藩翰譜、讀史餘論、折焚く柴の記、采覽異言、西洋紀聞等なり。

家宣：(在職四年)：家繼(四年) 繼ぎて八代將軍となる吉宗

は紀伊頼宣の孫なり(中御門天皇より櫻町天皇御代に亘る)。

一、勤儉尙武。二、貨幣改鑄(享保金)。三、足高の法。四、

公事方御定書。(刑法成文律)五、六諭行義の大意を平易にし

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

### 一四、將軍吉宗の治績

#### 3. 獎實

#### 勵學

兒童に讀ましむ。六、大岡忠相(越前守)の任用。七、室直滯  
荻生徂徠を顧問とす。八、荷田在滿に古制を諮問す。

一、自ら天文學を究め其機械を造る。

二、洋書輸入の禁を弛べ宗教に關係なきものは購讀を許す。

三、青木文藏を長崎に遣はし蘭書を學ばしむ。

一、甘藷栽培…青木文藏をして事に當らしむ。

二、人參、甘蔗の培養を奨勵す。

三、砂糖の製法。四、諸國の物産取調をなさしむ。

五、國産大に起る…紀伊の密柑、甲斐の葡萄、土佐の鯉節、  
上野、信濃の繭糸等の如し。

六、大阪米商會所…公許す。  
(附説)…米將軍の稱ありて享保の治と言ふ。

#### 4. 興殖

#### 業産

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

### 一五、田沼意次の失政(安永天明の弊政)

#### 1. 拔擢

#### 擢

一、將軍家重(吉宗の子)…多病田沼意次を拔擢す。  
二、將軍(家重の子)其子意知を用ふ。父は老中子は若年  
寄とふる。

#### 2. 事實

#### 實

一、失政  
ハ、賄賂行はる。ニ、奢侈遊惰家財を失ひ金錢  
を商人に借りて姑息の策をなす。  
イ、天明四年穀物豊らず餓死するもの無數、然  
も苛政止まず。ロ、大火、水害、地震、噴火、暴風  
相次ぐ。

#### 3. 結果

#### 果

一、怨聲四方に起り幕府の勢大に傾く。  
二、意知殺され意次罷められ家治薨す。

(天明の)  
飢饉

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

一六、寛政の治  
(松平定信)

1. 將軍家  
齋出身

1. 將軍家齋出身  
一、御三卿(宗尹)。ハ、清水邸(家重の時其子重好に與ふ)とし領地を與へず資格は尾州、紀州に同じ。  
二、家齊は宗尹の孫一ツ橋家の出身なり。

2. 白河城主定信の出身  
田安宗武の子なり將軍尙ほ幼故に輔佐す。

- 一、賢明にして學識に富む。
- 二、奢侈を禁じ節儉自ら勵精す。
- 三、皇室炎上に當り(天明八年)自ら造營を總理す。
- 四、太上天皇の尊號を拒み奉る。
- 五、諸侯に備荒儲蓄をなさしむ。
- 六、旗下の士の困窮せるものを救ふ。
- 七、學制を改め昌平校を改革し大に教育學問を奨勵す。

3. 定信の文  
學獎勵

- 八、奸邪を退け賢良を用ひ孝子節婦義僕を賞す。
  - 九、農桑を勸め風俗を匡正す。一〇、武技を練り士氣を鼓舞す。
4. 光格天皇の英明……閑院宮より入り大統を嗣ぎたまふ。  
5. 定信の文……在職七年辭して樂翁と稱し、詠歌、及著書をなし、又文藝を奨勵す。

6. 諸藩の治

- 有名なるは、一、細川重賢(熊本)。二、上杉治憲(米澤)。
- 三、松平容頴(會津)。
- 四、淺野重辰(安藝)。
- 五、池田治定(備前)。
- 六、毛利重成(長州)。
- 七、徳川治貞(紀伊)。

1. 振朝はす權

頼朝政を執りてより六百年、後鳥羽上皇朝權回復を謀りて成らず、後醍醐天皇中興の業破れ足利、織田、豊臣、徳川諸氏に逐り爰に回復の曙光を認むるに至る。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

一七、尊王論

2. 尊王者

- 一、徳川光圀：大日本史を著し大義を明にす。
- 二、淺見安正（山崎闇齋の門人）：靖獻遺言を著す。
- 三、竹内式部、山縣大貳、藤井右門：尊王説を唱へ公卿の門に出入し放逐又は重刑を受く。

3. 尊王家

- 一、高山彦九郎（正之）：志士に交はり大義を説く。
- 二、蒲生君平（秀實）：山陵の荒廢を歎じ山陵誌を著す。
- 三、頼襄（山陽）：日本外史、日本政記を著す。

1. 林子平（友直）

仙臺の人海國兵談、三國通覽を著し海防を説く。

2. 松平定信

亦房總等の沿岸を巡視す。

一八、海防策

1. 海外諸國の形勢

- 一、アメリカ合衆國：獨立す。
- 二、イギリス：印度を略す。
- 三、フランス：後印度を窺ふ。
- 四、ロシア：シベリアを併呑し千島を略す。

一九、邊警の急

2. 露寇人

- 一、寛政四年箱館に來り國書を呈し通商を請ふ幕府諭して長崎に赴かしむ。
- 二、寛政十年蝦夷を侵掠す。

3. 幕府の警戒

- 一、近藤重藏（守重）に蝦夷巡視を命ず。
- 二、伊能忠敬：幕命により蝦夷及び全國を測量し十八年の後日本輿地實測圖を作る。
- 三、松前奉行：蝦夷地を管せしめ北門を警備せしむ。

4. 邊警に至る

- 一、文化元年（二四六四）露の使長崎に來り又通商を乞ふ我れ祖法を説き拒絶す此後頻りに我を窺ふ。
- 二、文化五年：英船長崎の民家を掠む。
- 三、攘夷論と和交論：文化十四年仁孝天皇御即位翌年文政と改元す。志士攘夷論を唱へ關學者和交説をとる。

關ヶ原—役江戸幕府滅亡



關ヶ原役—江戸幕府滅亡

二〇、外船擊攘  
形と内外の勢

1. 外船擊攘の令と外國の形勢

- 一、文政八年幕府、外船擊攘令を發す(文政の令)。
- 二、ヲランダ人：西洋の事情を陳べ和交の利を説く。
- 三、外船類至：英、佛、米等の船舶來航するもの多し。

水戸侯(尊王論を唱へ、藤田東湖等を用ひ、海防、攘夷を齊昭策す。

2. 國內の形勢

- 一、佐賀侯鍋島齊正、薩摩侯島津齊彬：大砲を造り、邊備を嚴にす。
- 二、高島四郎大夫(秋帆)：江川 太郎左衛門をして西洋式の銃隊操練を行はしむ。
- 三、幕府：大船製造の禁と日章旗：嘉永の始め其禁を解き國旗を定む。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

二一、國學者畫家  
及蘭學者

1. 漢學と國學者

一、漢學者：支那を尊び聖賢の本土とふし自ら東夷と稱するの甚しきに至る。

二、國學者：我國體の尊嚴と尊王の大義とを明かにし王政復古の事業を催進し士氣爲めに一燃す。

2. 國學四大家

一、荷田春滿。二、賀茂眞淵。三、本居宣長。四、平田篤胤。

3. 塙保巳一の事業

盲人にして強記定信に召され群書類從を大成す。

4. 蘭學

一、將軍家：イ、前野良澤。ロ、杉田玄白。ハ、大槻玄澤等治時代：刻苦勉強す。

二、天保年中：イ、渡邊登。ロ、高野長英共に著書あり。

5. 諸藩の教育

一、文化文政の頃最も盛なり。二、萩の明倫堂。三、鹿兒島の造士館。四、佐賀の弘道館。五、仙臺の養賢堂。六、米澤の興讓館有名なり。七、寺小屋：庶民を教ふ

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

三、文化文政治

- 1. 時
- 2. 事
- 3. 結

代……將軍家齊在職五十年に及ぶ。  
 定信退職後親ら政をなし天下太平なりしが人々太平に馴れ安逸情弱となり士風衰へ財政困難家齊又政に倦む。  
 果……幕府の勢力次第に衰頽に傾く。  
 一、天保三、四年以來諸國飢え、同七、八年更に甚だし。

三、大鹽の亂

- 1. 原
- 2. 結
- 1. 時

因……  
 一、大鹽 出身(大阪の與力)……學を好み才名あり、飢民を救はんとし自ら藏書を賣り又町奉行に請ひしも納れられず。  
 果……平八郎憤激禁ぜず亂をかし自殺せり(天保八年)。  
 代……將軍家齊、子の家慶に譲る。  
 一、水野忠邦(越前守)の老中……忠邦銳敏才力あり。  
 二、忠邦の勤儉尙武を勵まし遊惰奢侈を戒め風俗を矯正し

二四、水野越前守の事蹟

- 2. 事

實……  
 一、兵備を嚴にし武術を講じ書籍檢閲の制を立つ。  
 二、結 果……事急に失し人心離反し遂に其職を止めらる。  
 三、國內尊王論沸騰し、外國我に壓迫し人心動き幕府益々衰亡に傾

及び幕府の非運

- 3. 動人

心 搖く。  
 代……享明天皇の嘉永六年(二五二三)六月。  
 實……  
 一、幕府明年決答すべき旨を告げて去らしむ。  
 二、幕府大に兵備海防を嚴にす。  
 一、將軍家慶薨じ家定嗣ぐ時にロシア軍艦を以て長崎に来る

二五、ペリ朝

- 1. 時
- 2. 事
- 3. 結

實……  
 一、幕府明年決答すべき旨を告げて去らしむ。  
 二、幕府大に兵備海防を嚴にす。  
 一、將軍家慶薨じ家定嗣ぐ時にロシア軍艦を以て長崎に来る

二六、ロシア朝

- 1. 事
- 2. 結

實……  
 一、將軍家慶薨じ家定嗣ぐ時にロシア軍艦を以て長崎に来る  
 二、隣好を修め樺太の境界を定めんと請ふ。  
 果……決答を延期して去らしむ。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

幕府威信の失墜神奈川條約と國論沸騰

1. 幕府威信の失墜

米使の來意を朝廷に奏し開港の可否を諸侯に諮問す。(専決すること能はず)。

2. 神奈川條約

一、翌安政元年正月ペリー又來る。二、幕府神奈川條約を締結す。三、下田箱館二港の碇泊と薪水食料を給することなす。四、露、英、蘭の三國と同様の條約をなす。

3. 國論沸騰

一、志士：開港攘夷の議論紛々たり。  
二、論者  
イ、吉田 (寅次郎)：渡米の謀破れ斬に處せらる。  
ロ、松陰 (左久間象山(修理))：松陰の師なり又罪せらる。

1. ハリス條約

安政三年(二五二六)米國公使代兼總領事ハリス下田に來り將軍に謁を請ひて許され貿易を開かんことを乞ふ。

二六、安政大獄原因

2. 幕府の事後承諾

幕府世論を懼り勅許を仰ぐ許されず老中堀田正篤自ら上京遊許を請ふも効なかりき。

3. 井伊直弼の處置

一、大老井伊直弼勅許を待たず、米國と假條約に關印し長崎。箱館、神奈川、兵庫、新潟の五港を開く。(安政五年)。  
二、露、英、蘭、佛の四國も亦此例による。  
三、將軍家定薨じ、上下皆一橋慶喜に望を囑す直弼衆議を排し家茂を紀伊より迎ふ世論沸騰志士憤然たり。

二九、安政大獄の事實

1. 徳川齊昭

尊王攘夷論者の推尊せる處直弼之れに替居を命ず。

2. 攘夷の密勅

齊昭に下り志士公卿相結駈す直弼之れに關す青蓮院宮を幽閉し公卿及其家臣尾張越前侯は禁錮し長州、薩州の武士浪人僞者僧侶を捕へ悉く禁錮斬流に處す。

3. 橋本左内、賴三樹三郎、梅田源次郎等は流斬せらる。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

(附 説)：安政五年より翌六年に亘る。

三〇、安政大獄 (櫻田の變)：萬延元年(二五二〇)水戸藩士佐野竹之助等十七人直弼を櫻田門外に殺す。

1. 公武合體論：幕府の威信衰へ尊攘論盛んとなる老中安藤信正議を立てて公武合體し上下相一致し攘夷せんとし親子内親王の降嫁を請ひて許さる、しかも効なし。

2. 討幕論：権力は京師に移り多くの尊攘論者廷臣と合議し平野國臣等島津久光を途に要し幕府の罪を問ひ攘夷を決行せんとす朝廷久光に整下を鎮靜せしむ。

三、幕府政權の移轉 (幕威次第に衰ふ) 3. 勅使東下：勅使大原重徳、家茂に幕政改良を命ず。

4. 幕府の改良：一、一橋慶喜を後見とし、二、松平慶永を政事總裁職とす。三、諸親藩の禁錮を解く。四、參勤交代の制を緩くす。

5. 薩長土の威望：五、斯く改革せしも幕府は却つて益衰ふ。毛利慶親(長州)、山内豊信(土佐)入京し島津氏と共に關下鎮撫の詔を拜す。

1. 男山行幸 (攘夷の節刀)：文久三年家茂上洛す四月十一日天皇男山に行幸し八幡社前に於て攘夷の節刀を賜はんとす家茂従ひ奉らず、後遂に勅を奉ず。

2. 下の關係 (彼の實力を認め)：長藩外船を下關に砲撃す、英、米、佛、蘭相連合して、下の關を砲撃す(文久三年五月)。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

三、攘夷難

(下の關及生麥事件)

3. 生麥事件

(攘夷熱の結果)

鳥津久光の勅使を護して東下するや、生麥村にて英人無禮をなせりとて之を斬る。英人大に怒り幕府に償金を迫り更に軍艦を率ゐる鹿兒島に迫る薩藩これを砲撃せり(同年七月)。

4. 一朝

議

(繪旨反覆)

一、攘夷說俄かに變じ朝議長藩の禁衛を解く。  
二、三條實美以下七卿長州に走る。

5. 攘夷論者の激昂

(反動)

一、藤本鐵石、松本奎堂等は、大和十津川に兵を擧ぐ。  
二、平野國臣は、但馬生野に兵を起す。  
三、武田耕雲齋又筑波に兵を擧ぐ、皆敗らる。  
元治元年長藩の老臣等藩主父子及び七卿の罪を許されんことを請はんが爲め兵を擁して入京す。

1. 原因

(元治の變)

一、佐幕黨(會津、桑名、薩藩)の兵防戦これを破る。

三、長州征伐 (元治の變)

2. 開戦

幕府征長の師を起す毛利氏老臣福原越後等を斬りて罪を謝し開戦に及びず幕府軍を旋へし七卿を太宰府に幽す。

3. 再征

一、開戦黨(高杉晋作等)これを憤り恭順黨を破り藩主を率の憤起し山口に據り幕府に當らんとす。  
二、薩長の薩は四郷隆盛、大久保利通と長の木戸孝允等と相連合して幕府を援けず。  
三、幕府の作戦：家茂大阪にて軍を督し兵を進めしむ。

4. 結果

幕軍連敗家茂薨じ、慶喜立て師を解く。

1. 假條許

此の時米、英、佛、蘭軍艦を率ゐ、條約勅許及び兵庫開港を逼る延議之れを許し安政以來の外交紛議一定す。

2. 今上天皇御即位

慶應三年正月なり。

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

關ヶ原役—江戸幕府滅亡

三、太政奉還

3. 返太

上政

- 一、幕府の威信は全く地に墜つ。
- 二、山内豊信其臣後藤象次郎を遣はし將軍慶喜に太政返上を説かしむ。
- 三、薩藩小松帶刀又同様のことを以てす。
- 四、慶喜遂に慶應三年(二五二七)政權を奉還す、家康より十五代二百六十五年なり。

現世 (王政維新より現時に至る)

一、王政維新の事業 (又御維新の政)

實

- 一、皇族、廷臣諸侯を會して國是を議せしむ。
- 二、三條實美以下の官位を復し歸京を許し又毛利氏を許す。
- 三、總裁、(有栖川熾仁親王) 議定、參與の三職を置く。
- 四、門閥の弊を一洗し人材登用の門戸を開く。
- 五、大小の政令一切朝廷より出づ。

1. 原

因

- 一、會津、桑名二藩の京都守護を停む。
- 二、慶喜の職を解き其封土を納めしむ。
- 三、慶喜二條城にあり其内旨を聞きて喜ばず幕臣又大に憤る
- 四、慶喜急に兵を收め大阪に赴き明治元年正月會津、桑名の兵を先鋒とし京に入らんとす。

王政維新—現時

王政維新—現時

二、伏見鳥羽の戦及び戊辰の役

2. 事

（伏見鳥羽の戦激戦四日）

- 一、薩、長二藩命に依り伏見、鳥羽に迎へ撃ち、仁和寺宮嘉彰親王征討大將軍となり錦旗を以て軍を督す。
- 二、幕兵敗れ大阪に走り慶喜等夜、海路江戸に歸る。
- 三、二月有栖川熾仁親王を征東大總督とし西郷隆盛參謀となり江戸を攻む。

3. 慶喜の恭順

（結果一）

- 一、慶喜上野寛永寺に屏居し勝安房をして罪を謝せしむ。
- 二、死一等を減じ慶喜を幽し江戸城を收め武器を押收し田安家達をして徳川氏を嗣がしむ。
- 三、慶喜の家士相集まり彰義隊と稱し公現法親王（能久親王）を奉じ寛永寺に據る官軍之を破る。

4. 彰義の亂隊

（結果二）

- 一、榎本武揚は軍艦を率ゐて陸奥の沿海に遁る。
- 二、大鳥圭介は下總に遁れ、後五稜廓の軍に投ず。

5. 會津攻撃

（結果三）

- 一、會津藩主松平容保奥羽越後の兵を合し若松城に據る。
- 二、明治元年九月之れを降し奥羽遂に平定す（又戊辰の役）
- 三、榎本武揚は箱館五稜廓に據りしも遂に降り明治二年五月海内全く平定す。

6. 函館攻撃

（結果四）

（註）…後奥羽の地を七國とし蝦夷千島を北海道とし十一國となす。

三、五條御誓文（明治元年三月）

1. 2. 3. 4. 5.

- 1. 廣く會議を興し萬機公論に決すべし。
- 2. 上下心を一にし盛に經綸を行ふべし。
- 3. 官武一途庶民に至るまで各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんを要す。
- 4. 舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし。
- 5. 智識を世界に求め大に皇基を振起すべし。

四、外交

（開國の布告）

（明治元年正月）  
當今の勢鎖港を取るべからず、宜しく萬國公法に遵ひ外國と和親を結ぶべし。

王政維新—現時

五、**一世一元**  
天長節及び  
東京奠都

- 1. 一世一元の制：萬世永く則らしむ。
- 2. 天長節を祝したまふ。
- 3. 江戸を東京と改稱し遷幸あらせらる（明治二年三月）

六、**廢藩置縣**

- 1. 原 因
  - 一、舊藩領は東京、京都、大阪を三府とし他を縣としたるも藩主は尙ほ土地人民を私有とし統一の政令便ならず。
  - 二、木戸孝九、大久保利通、板垣退助等これを憂へ各藩主に説き諸藩は土地人民を奉還す（明治二年）。
  - 三、舊藩主を藩知事とし舊土を治めしむ。
  - 四、明治四年藩を廢して縣となし縣令を置きて政を行はしむ。
- 2. 結 果
  - 一、士民封建の迷夢未だ十分に覺めず動亂を起すものあり。

七、**征韓論**

- 1. 原 因
  - 一、維新以後蓄奸を修めんことを求むるも彼頗る無禮なり。
  - 二、四郷隆盛、江藤新平、板垣退助、後藤象次郎等論者無禮を懲らさんとす。
- 2. 顛 末
  - 一、非征論者：岩倉具視、木戸孝九、大久保利通等内治を急とす
  - 二、隆盛等事成らざるにより秋を連れて職を辭せり。（明治六年十月）

八、**佐賀の亂**  
（征韓論の影響）

- 1. 原 因
  - 一、翌年江藤新平已れが意見の違せざるによる。
  - 二、郷里佐賀にて亂を作し後ち捕へられて死に處せらる。
- 2. 結 果
  - 一、臺灣の蠻民我漢民を殘殺す。
- 過…清國に其罪を問ふ彼れ版圖外なりと言ふ。
- 一、四郷從道都督となり蕃地を平ぐ清國異議を申出づ。
- 二、大久保利通辨理大臣となり清に償金を出さしめて軍は凱旋す。

九、**臺灣征伐**  
（征韓論の餘  
儀冷却の爲）

- 1. 原 因
  - 一、翌年江藤新平已れが意見の違せざるによる。
  - 二、郷里佐賀にて亂を作し後ち捕へられて死に處せらる。
- 2. 結 果
  - 一、臺灣の蠻民我漢民を殘殺す。
- 過…清國に其罪を問ふ彼れ版圖外なりと言ふ。
- 一、四郷從道都督となり蕃地を平ぐ清國異議を申出づ。
- 二、大久保利通辨理大臣となり清に償金を出さしめて軍は凱旋す。



### 一〇、西郷隆盛の亂

(西南の役)

#### 1. 原因

(政府の不平者)

- 一、熊本の亂(明治九年新政に不平なるもの亂をなせしも直に平定す。(神風連の一揆))
- 二、萩の亂(前原一誠等の亂)
- 三、西郷隆盛鹿兒島に歸り桐野利秋、篠原國幹と私學校を立つ隆盛の威望重く子弟機を見て動かんとす。

#### 2. 事實

(隆盛舉兵官軍部署)

- 一、明治十年二月兵を擧げ熊本城を攻圍す城將谷干城屈せず天皇隆盛等の官位を削り熾仁親王を總督とし陸軍中將山縣有朋、海軍中將河村純義を參軍とし之を討たしむ。
- 二、激戦地(高瀬、山鹿、植木、田原坂等連戦五十餘日)。
- 三、別働隊(陸軍中將黒田清隆同少將山田顯義八代に上陸す)
- 四、賊背後を衝かれ熊本の圍を解き退却す。
- 五、隆盛以下鹿兒島に退き戦死す(明治十年九月)後隆盛は特に罪を赦され正三位を贈らる。

#### 3. 結果

### 一一、憲法發布

#### 1. 2. 3. 4.

- 1. 西南戦役後民權論次第に盛んとふる。
- 2. 明治八年地方官會議を開く。
- 3. 同十二年府縣會を開設す。
- 4. 同二十二年(二五四九)紀元節に帝國憲法發布せられ二十三年帝國議會召集せられたり(詔勅は明治十四年に出づ)

### 一二、皇太子冊立(明治二十二年天皇節の佳辰、明宮嘉仁親王を皇太子に立てたまふ。)

#### 江華島事件

明治八年我軍艦江華島附近を測量せるに故なくして砲撃す、我砲臺を毀つ、翌年間罪使を遣はし獨立國と認め條約を締結す。

暴徒我公使館を襲撃す、償金を出さしめ守兵を公使館に置く清國又朝鮮に兵を屯せしむ。

#### 1. 遠因

#### 二、明治十五年變

明治八年我軍艦江華島附近を測量せるに故なくして砲撃す、我砲臺を毀つ、翌年間罪使を遣はし獨立國と認め條約を締結す。

暴徒我公使館を襲撃す、償金を出さしめ守兵を公使館に置く清國又朝鮮に兵を屯せしむ。

王政維新—現時

明治十年  
（天津條約）

一、朝鮮の一黨（獨立黨）他黨（事大黨）の首領を殺し國王を擁し我の援助を請ふ清兵彼を援け獨立黨を破り我公使館を焼き我民を殺傷す。

ロ、井上馨：朝鮮に使せしむ。

ハ、伊藤博文：清國に使せしめ李鴻章（全權大臣）と天津條約（互に朝鮮の駐在兵を撤去し、必要あらば相通知して出兵すべきことを約す）を締結す。

二、明治二十七年東學黨の亂起る、清國天津條約に背き兵を朝鮮に出す。

三、我亦兵を送り公使館及び居留民を保護す。

一三、日清戦争

2. 近因

一、我、國王に内政改革を行はしむ、王新政の詔を下し牙山の清兵を斥けん、（一）を請ふ、清却つて我に撤兵を求め談判相容れず。

二、清の軍艦豊島沖にて我に戦を挑む、我之れを破り次で陸兵は牙山の敵を破れり。

三、宣戦の詔勅：八月一日下る、舉國一致事に従ふ。

四、平壤包圍、九月十五日：大本營廣島進發。

五、國攻撃、陸軍中將：野津道貫平壤を破る。

六、海洋島戦捷：海軍中將伊東祐亨北洋水師を破る。

七、連連戦、第一軍陸軍大將山縣有朋、遼東を占領す。

八、連連戦、第二軍陸軍大將大山巖：金州半島に上陸す旅順口—威海衛—澎湖島を略す。

王政維新—現時

3. 経過

九、我海軍北洋水師を全滅す。

王政維新—現時

4. 結果

- 一、下の關條約
  - (明治二十七年四月十七日) 一、朝鮮獨立確認。
  - 二、價金二億兩。
  - 三、割讓：遼東半島、臺灣諸島、澎湖列島。
  - 四、開港：沙市、重慶、蘇州、杭州。
- 二、三國干涉：露、獨、佛の忠言(遼東還附代償三千萬兩)。
- 三、臺灣討伐：劉永福我に抗す陸軍中將能久親王平定す。

一四、條約改正

3. 2. 1.

- 1. 明治四年以後屢々交渉して成らず。
- 2. 明治二十七年八月陸奥宗光英國と條約改正を締結し遂に列國に及ぶ。
- 3. 明治三十二年七月八月以後對等條約を實施す。

王政維新—現時

一五、北清事件

1. 列國租借

- 一、露國：旅順口、大連灣を租借す。
- 二、獨逸：膠州灣を租借す。
- 三、佛國：廣州灣を租借す。
- 四、英國：威海衛を租借す。
- 五、日本：福建の不割讓を約す。

2. 義和團匪

明治三十三年北清に起り北京に攻め入り列國公使館を圍む。我軍聯合軍の主力となり各國公使を重圍中に救ふ清廷和を請ふ。

3. 結果

明治三十五年一月清韓の保全、東洋平和の維持、兩國の利益保全。

一六、日英同盟

2. 第二回

明治三十八年八月前回の協約を擴張し全く攻守同盟となし東亞印度に於ける全局の平和を確保。

1. 第一回

王政維新—現時

王政維新—現時

一七、日露戦争

1. 原因

因

一、滿州占領露國は北清事件の際一時滿州を占領し後約に背きて撤兵せず。

二、韓國威歴：韓國をも威歴し其行動頗る亡狀。

三、我が交渉：清韓保全東洋平和の爲に交渉す。

四、露の亡狀：露國之れを無視し却つて東方軍備を擴張す。

一、國交断絶：明治三十七年二月戦端開け宣戦詔勅下る。

二、海軍：東郷司令長官聯合艦隊を率ゐて仁川、旅順に敵を破る。

三、陸軍：九連城、南山、得利寺に敵を破る。

四、連戦連捷：一、滿州軍總司令官大山巖遼陽を陥れ沙河に會戦し奉天附近に敵軍を壓戦す。

二、東郷大將はロヂエストヴエンスキーのバルチック艦隊を日本海にて殆んど全滅せしむ。

2. 経過

(戦況)

3. 結果

果

一、平和の勸告米國大統領ルーズヴェルト平和克復を勸告し兩國全權委員ポーツマウスに會す。

二、和約締結(明治三十八年九月)

一、露國は韓國に於ける我國の優越權を認め

ロ、旅順、大連の租借權を我に讓る。

ハ、長春以南の東清鐵道を我に讓る。

ニ、樺太島(薩哈連)南部を我に分割す。

ホ、兩國は滿洲より撤兵す。

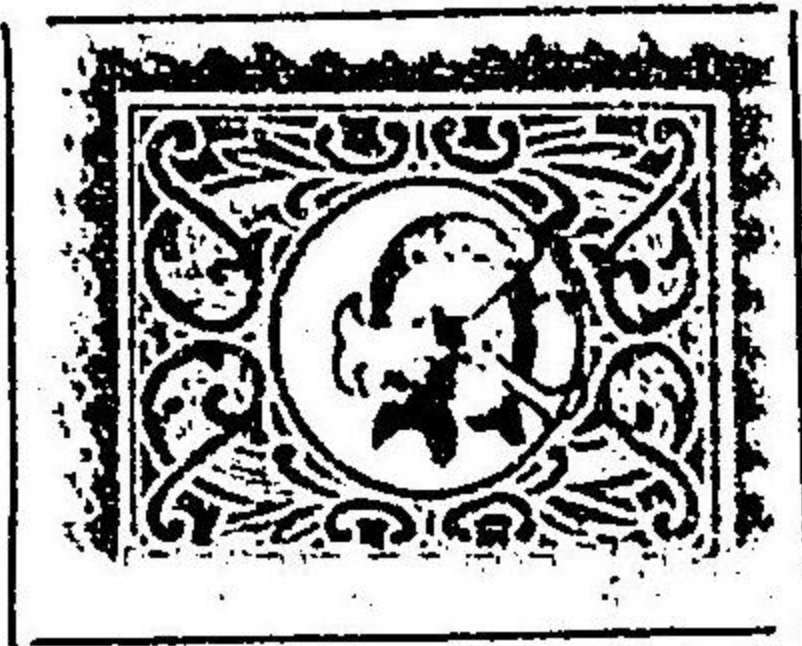
世界最大強國の一となる。

滿洲韓國の經營國力發展は益々吾人の大責任なり。

國家の光榮進運を維持せんことは吾人の大義務なり。

一八、我國の位置 3.2.1.

王政維新—現時



刷行

印日五月八年九十治明  
發日十月八年九十治明

【錢五十金價定】

複製

者作著  
之嘉藤後  
郎一近島美

不許

者行發

館盟六社會資合

地番三町砲鐵區橋本市京東

丸百七本杉者表代

地番五廿目丁二町崎岡區橋本市京東

吉銓藤遠者刷印

所賣販大

七	甚	黑	目	日丁二町馬崎南區橋本市京東
吉	友	原	柳	町砲鐵區橋本市京東
丸	百	本	杉	日丁二町石本區橋本市京東
耶	十	黑	目	町ノ四表町岡長縣瀨新
耶	太	喜	澤	町枝櫻市野長縣野長

所行發

地番三町砲鐵區橋本市京東

館盟六社會資合

(番四六七二花浪話電)

(刷印會合六)

# 研究叢書

理科  
動物學。植物學。生理衛生。礦物學。化學。

歷史地理  
日本地理。外國地理。地文。西洋史。

數學  
算術解法。代數解法。幾何學解法。三角學解法。

教育學  
教育史。教育學。心理學。學校管理法。論理學。教授法。

文學  
國文典。漢文典。英文典。

最新自修叢書  
受驗算術。受驗代數學。受驗幾何學。受驗三角術。一册定價金卅五錢。此以廿四錢。

▲入トツケホ美優釘裝▲  
價定册一 上以頁十五百凡册每  
錢拾貳製並 ▲ 錢五廿製上 ▲  
錢貳金 各稅郵

# 普通學表

定價金十五錢  
郵稅金二錢

礦物學。動物學。植物學。生理衛生。物理學。化學。日本史。東洋史。西洋史。東洋史年表。西洋史年表。世界地理。外國地理。國文典。漢文典。英文典。算術。代數。幾何學。三角學。立體幾何學。論理學。教授法。心理學。教育學。倫理學。

# 實業學表

商業通論。農業通論。肥料學。養畜學。實用植物學表解。實用動物學表解。家政學表解。  
(其他逐次發行)  
二册：定價金拾八錢  
郵稅貳錢宛

東京市日本橋區砲町三番地  
發行所 六盟館

